

県営圃場整備に伴う発掘調査

中須遺跡・古田遺跡・佐間殿遺跡

中津市文化財調査報告 第82集

2017
中津市教育委員会

例　　言

本書は平成23年度、25年度、27年度に実施した県営圃場整備に伴う発掘調査報告書である。

調査体制

平成23年度

調査主体 中津市教育委員会
　　　　　北山 一彦（中津市教育長）
調査事務 藤原 義郎（中津市教育委員会 文化振興課長）
　　　　　田中布山彦（　　同　　文化財係長）平成24年3月まで
　　　　　平田 由美（　　同　　主査）
調査担当 花崎 徹（　　同　　主査）

平成25年度

調査主体 中津市教育委員会
　　　　　廣畠 功（中津市教育長）
調査事務 川西 州作（中津市教育委員会 文化財課長）
　　　　　高崎 章子（　　同　　文化財係長）
　　　　　平田 由美（　　同　　主査）
　　　　　竹内 奈央（　　同　　主任）
調査担当 花崎 徹（　　同　　主査）

平成26年度

調査主体 中津市教育委員会
　　　　　廣畠 功（中津市教育長）
調査事務 今津 時昭（中津市教育委員会 文化財課長）
　　　　　高崎 章子（　　同　　主任研究員兼 係長）
　　　　　竹内 奈央（　　同　　主任）
調査担当 花崎 徹（　　同　　主査）

平成27年度

調査主体 中津市教育委員会
　　　　　廣畠 功（中津市教育長）
調査事務 平原 潤（中津市教育委員会 文化財課長）
　　　　　高崎 章子（　　同　　主任研究員兼 係長）
　　　　　竹内 奈央（　　同　　主任）
調査担当 花崎 徹（　　同　　主査）

平成28年度

調査主体 中津市教育委員会

廣畠 功（中津市教育長）

調査事務 高崎 章子（中津市教育委員会 社会教育課 文化財室長）

花崎 徹（ 同 同 文化財係 主幹）

長尾 淳平（ 同 同 文化振興係）

調査担当 花崎 徹（ 同 同 文化財係 主幹）

現場の遺構実測は平成23年度を花崎が、平成25年度を株式会社九州文化財総合研究所と一部花崎がおこなった。

現場の写真撮影は花崎がおこなった。

出土遺物の実測、写真撮影、観察表は有限会社九州文化財リサーチがおこなった。

遺物の整理作業は栗田真弥、岩崎弘子、吉上かおり、土橋厚子がおこなった。

遺構の製図は栗田真弥、吉上かおりがおこなった。

現場作業、整理作業は下記の皆様の協力による。（敬称略）

平成23年度 石貝千代栄、井上ミツル、表裕治、加来晴美、金崎ミチ子、辛島孝、
川口政代、合鶴玲子、角美枝子、折口慧、田口和彦、広津トシ子、
光本瑞代、山本高亮、若木和美

平成25年度 阿部恵子、安倍万江、磯村義人、今井玲子、奥章子、奥塚恭子、
甲斐嘉夫、小林裕明、塙谷絢子、末廣洋子、祐成本文、信末直秀、
本田廣和、松村たか子、松本浩司、森勝久、山尾カズエ、
渡辺正一

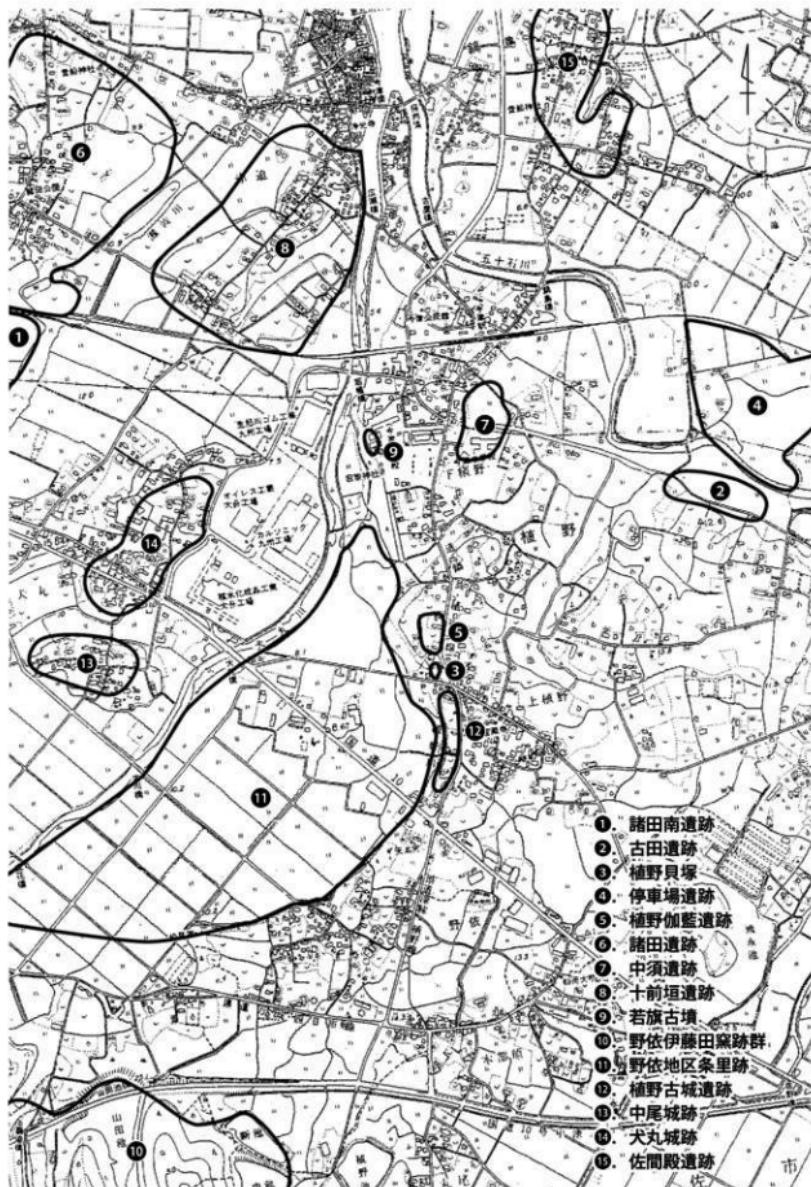
平成27年度 阿部恵子、磯村義人、黒川安志、五反田正利、後藤満廣、平ノ上丈子、
深藏庸夫、松本浩司、矢部翔平、加来晴美、甲斐嘉夫、塙谷絢子、
末廣洋子、松村たか子、奥塚恭子、高橋裕美、土橋厚子、岩崎弘子、
栗田真弥、吉上かおり

平成28年度 栗田真弥、吉上かおり

目 次

第1章 地理と歴史的環境	1
第2章 平成23年度調査・中須遺跡	3
第3章 平成25年度調査・古田遺跡	17
第4章 平成27年度調査・佐間殿遺跡	35
第5章 小結	44

第1章 地理と歴史的環境



第1図 中津市遺跡分布図 (S=1/25,000)

中津市は大分県の北部に位置し、市域面積491.17km²を有する。平成17年3月に旧下毛郡と合併し、人口約85,900人で温暖な瀬戸内気候に属する。平成28年度の降水量は1,724.5mmであった。東を宇佐市、西は山国川を挟んで福岡県、南を日田市、北は豊前海に面する。中須遺跡、古田遺跡は中津市の北東部に位置する。今津地区は2級河川犬丸川が八面山から流れ、下流で五十石川と合流して周防灘に注いでいる。ここで中須遺跡、古田遺跡、佐間殿遺跡周辺の遺跡を概観してみる。

旧石器時代の遺跡は諸田南遺跡があげられる。断片的であるが尖頭器、ナイフ型石器などが黄褐色の地山から検出されている。資料は断片的である。

縄文時代の遺跡は古田遺跡、植野貝塚、ゴンゲ遺跡などがあげられる。古田遺跡は県道拡幅工事に伴う発掘調査で発見され縄文晚期の集落である。植野貝塚は縄文後・晚期の貝塚で、牙製垂飾具や貝輪などの装飾品や魚類、動物の骨などが確認されている。ゴンゲ遺跡は縄文時代の遺物包蔵地として周知される。

弥生時代の遺跡は停車場遺跡、植野伽藍遺跡、諸田遺跡などがあげられる。停車場遺跡、植野伽藍遺跡は包蔵地として周知される。諸田遺跡ではフ拉斯コ状の貯蔵穴や5cm～10cmほどの小石が数百個詰まった用途不明の土坑が調査されている。

古墳時代の遺跡は中須遺跡、十前垣遺跡、諸田遺跡、若旗古墳、野依伊藤田窯跡群などがあげられる。中須遺跡は今津中学校新設に伴う発掘調査で古墳時代後期の集落跡が調査されて、蛸壺埋納遺構などが発見されている。十前垣遺跡も古墳時代後期の集落跡である。移動式カマドが出土している。諸田遺跡、諸田南遺跡は中津市内の古墳時代最大級の集落で、L字カマドを有する住居や轍の羽口などが検出された。渡来人の存在が推測される。若旗古墳は聞き取りから、石室内の副葬品の存在が昭和まであった可能性が指摘される。野依伊藤田窯跡群では須恵器が焼成されている。

奈良、平安時代の遺跡は野依地区条里跡が周知される。条里跡は近代の圃場整備でその姿をたどることは困難な状況にある。発掘調査例も乏しく詳細は不明である。

中世の遺跡は植野古城遺跡、諸田遺跡、中尾城跡、犬丸城跡などがあげられる。諸田遺跡では圃場整備に伴う発掘調査で堀に囲まれた居館跡が調査された。中尾城跡では土塁が現在も残る。犬丸城跡は犬丸氏の居城で、中尾氏、犬丸氏は黒田官兵衛の豊前入国に従わず、一揆に加わり、黒田に攻め落とされる。1600年、細川氏の入国。豊前39万9,000石の領主となる。

参考文献

- 『古田遺跡』2003 大分県教育委員会
- 『停車場遺跡』2002 中津市教育委員会
- 『犬丸川流域遺跡群』1997 中津市教育委員会

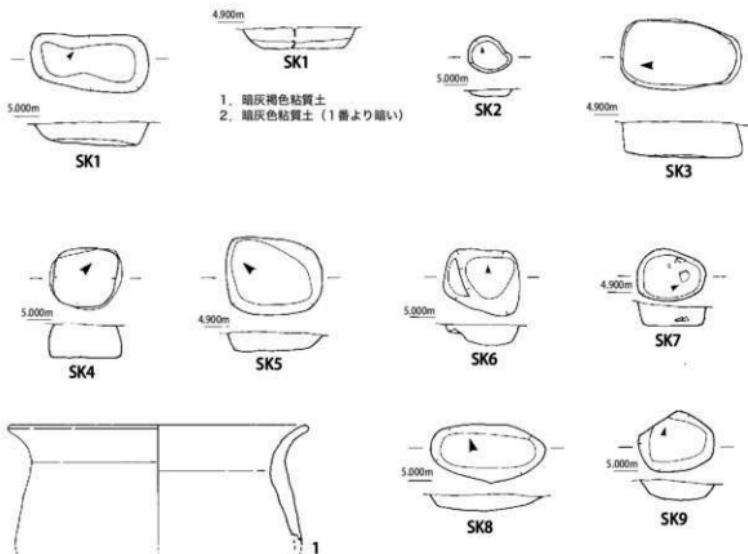
第2章 平成23年度調査・中須遺跡

1、調査に至る経緯

平成23年度、大分県北部振興局（以下、振興局）より市内大字植野、今津で農業基盤整備に伴う埋蔵文化財の照会が中津市教育委員会・文化振興課へなされた。協議の結果、切土部分への試掘調査の実施が決定した。平成23年7月11日～25日まで試掘調査を実施し、一部で遺跡が確認された。振興局に報告し遺跡の保護を協議したが、水掛から掘削の実施が決定し、遺跡の本調査が確定した。

2、調査の概要

本調査は平成23年10月6日～12月7日まで実施した。重機で表土剥ぎを実施し、人力で遺構検出をおこなった。検出した遺構を移植ゴテで掘り下げ、1/20平面実測図を作成し、写真撮影、土層図等を作成し記録保存した。出土物は平成25年度11月より洗浄、注記、復元をし、平成26年度、遺物実測、製図を有限会社九州文化財リサーチに委託した。実測した遺構の見通し図を作成し、製図をおこなった。平成28年度、調査報告書を刊行した。



第2図 中須遺跡SK1～SK9平面図・土層図 (S=1/60) 出土遺物図 (S=1/4)

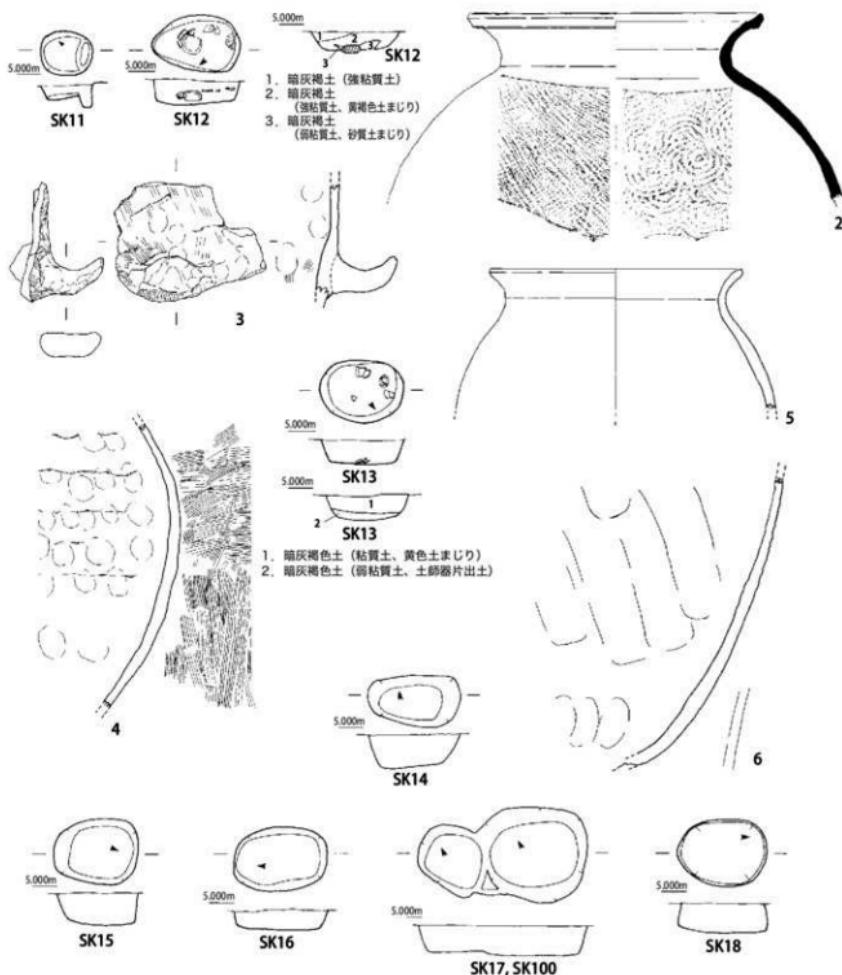
3、遺構

水田

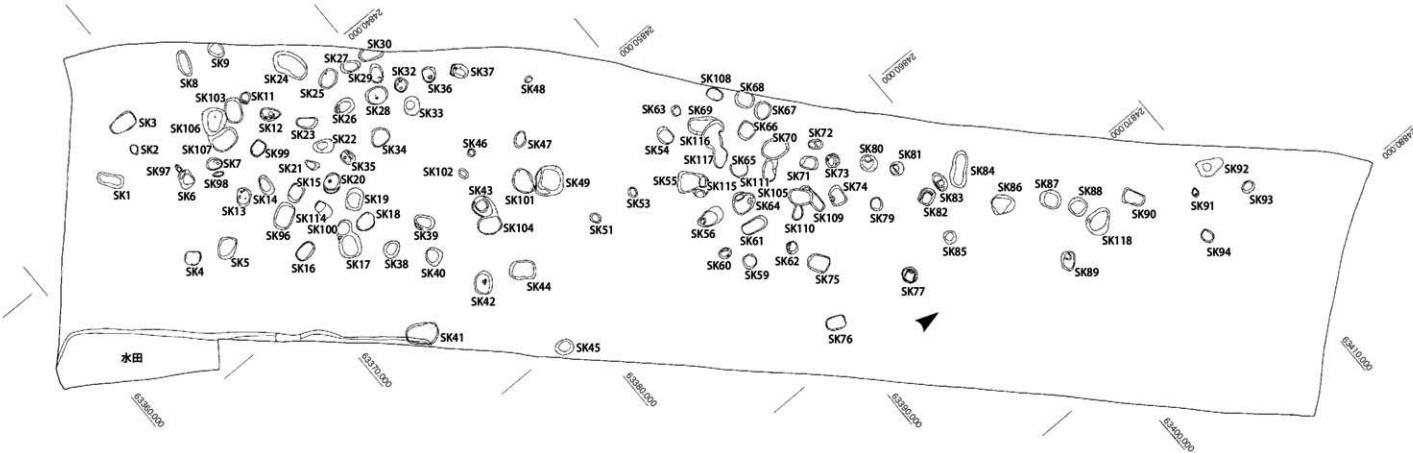
出土遺物は須恵器小片、瓦質土器小片、近代の瓦片、陶器片などが出土している。18は土鍤。外面はミガキ。

土坑(以下SKと表記)

SK1は最大幅144cm、最大深28cmを測る。出土遺物は図示していないが、土師質土器小片であった。



第3図 中須遺跡SK11～SK18平面図・土層図 (S=1/60) 出土遺物図 (2、5はS=1/4、以外はS=1/3)



第4図 中須遺跡全体図 (S=1/200)

SK2は最大幅54cm、最大深8cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK3は最大幅142cm、最大深44cmを測る。出土遺物は土師器小片であった。

SK4は角丸方形。オーバーハンギングに掘り込まれる。最大幅78cm、最大深40cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK5は角丸方形。最大幅118cm、最大深24cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK6は最大幅92cm、最大深24cmを測る。出土遺物は1点もない。

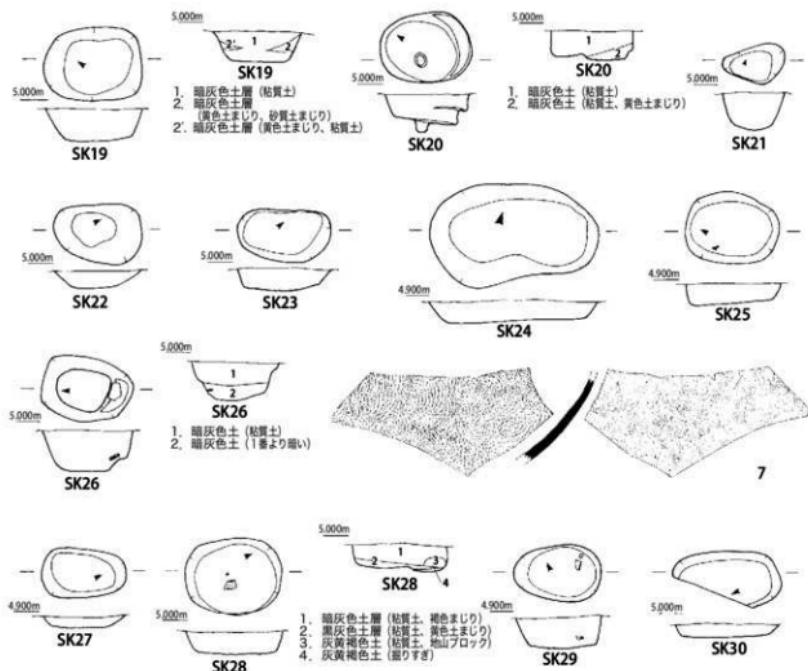
SK7は最大幅84cm、最大深28cmを測る。

出土遺物

1は土師器の甕の口縁部。復元口径24.8cmを測る。外面とも摩滅が著しい。

SK8は梢円形。最大幅142cm、最大深22cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK9の全景は不明。最大幅94cm+ α 、最大深21cmを測る。出土遺物は1点もない。



第5図 中須遺跡SK19～SK30平面図・土層図 (S=1/60) 出土遺物図 (S=1/8)

SK11は楕円形。最大幅64cm、最大深30cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK12は最大幅106cm、最大深30cmを測る。

出土遺物

2は須恵器の甕の口縁部。復元口径24.4cmを測る。内面は同心円タタキ、外面は格子目タタキ後ナデ。3は土師器の甕胴部か。外面はハケ目。4は土師器の甕の取手。外面はハケ目。

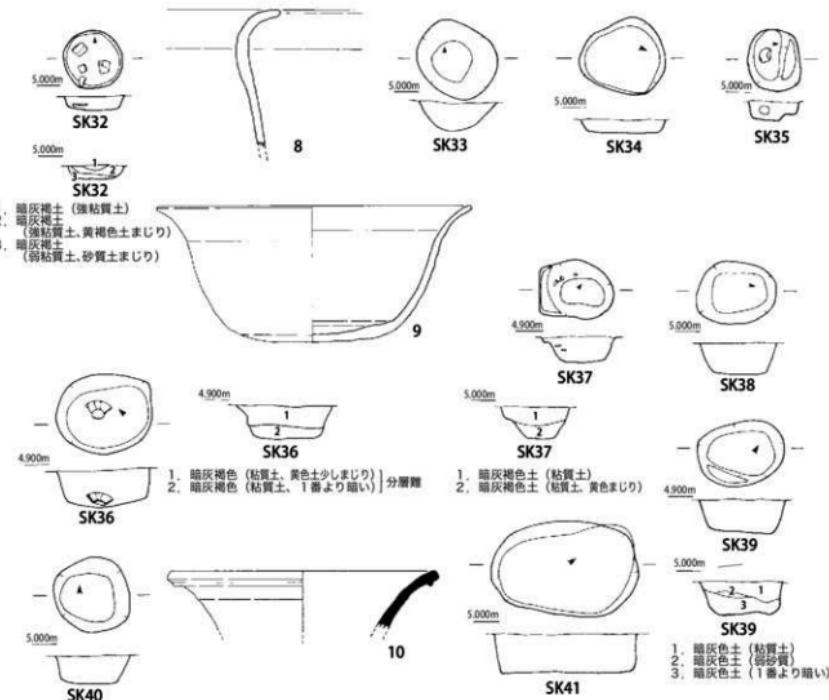
SK13は橢円形。最大幅102cm、最大深28cmを測る。

出土遺物

5、6は土師器の甕。5は口縁部。復元口径20.6cmを測る。胴部外面は被熱する。6は底部。外面は摩滅で調整は不明。内面はケズリ。

SK14は最大幅114cm、最大深40cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK15は楕円形。最大幅104cm、最大深40cmを測る。出土遺物は1点もない。



第6図 中須遺跡SK32～SK41平面図・土層図（S=1/60）出土遺物図（9はS=1/4、以外はS=1/3）

SK16は最大幅116cm、最大深24cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK17はSK100と切り合う。切り合いは不明。最大幅134cm+ α 、最大深36cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK18はオーバーハングで掘られる。最大幅102cm、最大深40cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK19は楕円形。最大幅122cm、最大深40cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK20は楕円形。底の中央部に15cm程のピットを有する。最大幅110cm、最大深47cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK21は角丸三角形。最大幅78cm、最大深45cmを測る。出土遺物は1点もない。

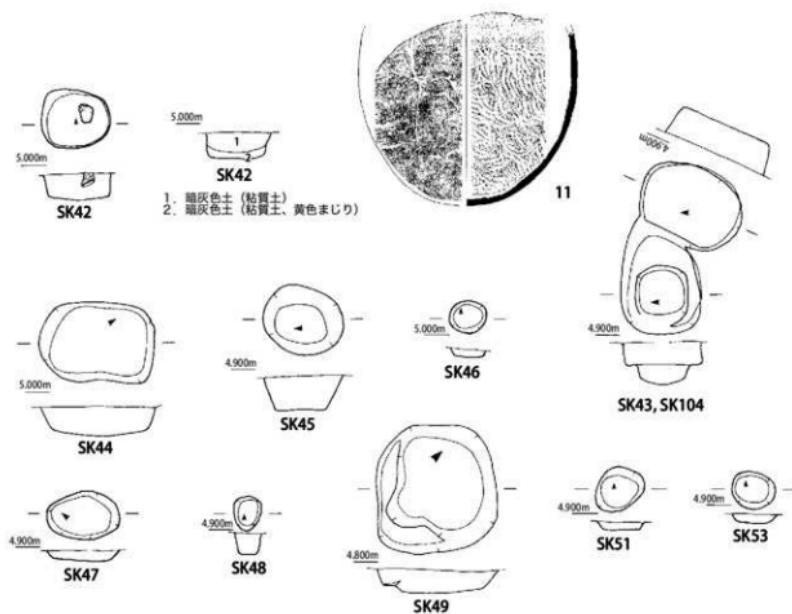
SK22は楕円形。最大幅108cm、最大深21cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK23は楕円形。最大幅114cm、最大深27cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK24は楕円形。最大幅204cm、最大深22cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK25は最大幅116cm、最大深28cmを測る。出土遺物は図示していないが、須恵器の甕の胴部。内面は同心円タタキ、外面は平行タタキを施す。

SK26は楕円形。最大幅110cm、最大深50cmを測る。



第7図 中須遺跡SK42～SK53平面図・土層図 (S=1/60) 出土遺物図 (S=1/6)

出土遺物

7は須恵器の甕の底部か。内面は同心円タタキ、外面は格子目タタキを施す。また図示していないが、土師器の小片が出土している。

SK27は楕円形。最大幅104cm、最大深14cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK28は最大幅120cm、最大深26cmを測る。出土遺物は図示していないが、土師器の小片。

SK29は楕円形。最大幅108cm、最大深38cmを測る。出土遺物は図示していないが、土師器の小片。

SK30の北側は調査区外へ。全景は不明。最大幅132cm+ α 。最大深20cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK32は円形。最大幅74cm、最大深16cmを測る。

出土遺物

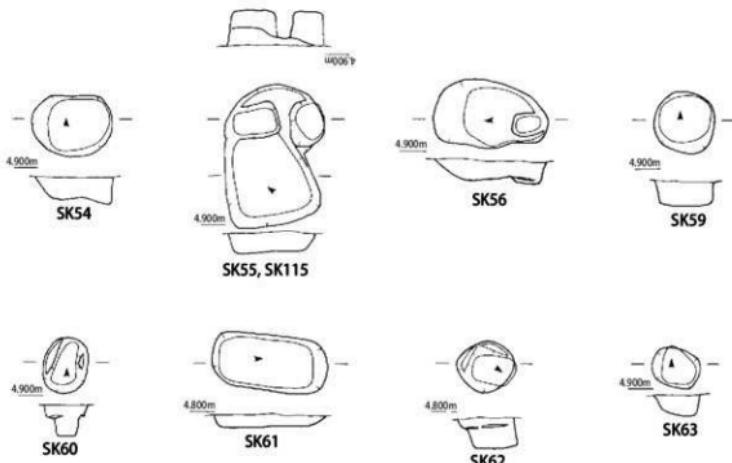
8は土師器の甕の口縁部。内外面とも摩滅が著しく調整は不明。図示していないが土師器片が1点出土している。外面にススが付着している。

SK33は円形。最大幅100cm、最大深35cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK34は楕円形。最大幅106cm、最大深16cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK35は最大幅76cm、最大深22cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK36は楕円形。最大幅120cm、最大深44cmを測る。



第8図 中須遺跡SK54～SK63平面図・土層図 (S=1/60)

出土遺物

9は土師器の鉢である。復元口径25.9cm、器高11.1cm、底径11.4cmを測る。口縁部は外反する。内外面とも摩滅が著しく調整は不明。6世紀後半～7世紀初頭のものか。鉢は土坑の底に据えられた状態で出土した。

SK37は楕円形。西側に1段のテラス状を有する。最大幅92cm、最大深32cmを測る。

出土遺物

10は須恵器の甕の口縁部。復元口径16.2cmを測る。端部は方形で直下に1条の突帯を有する。内外面とも回転ナデ。

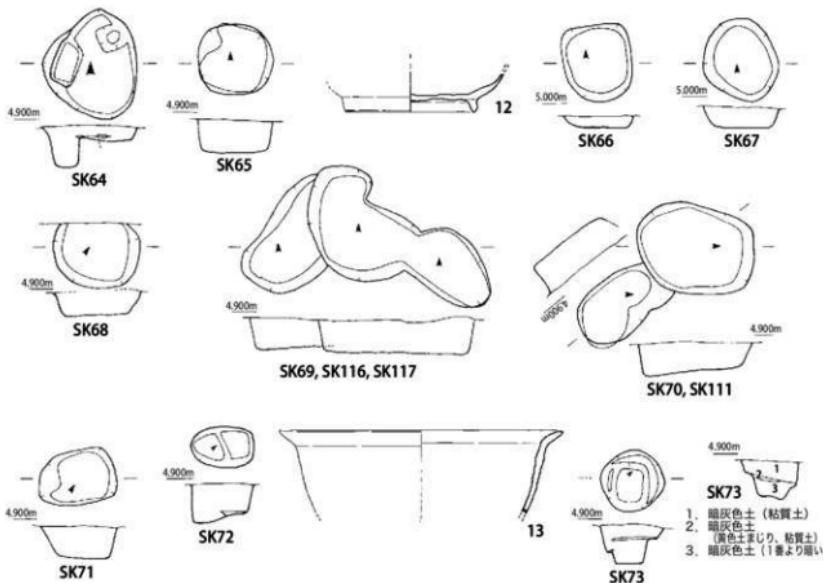
SK38は最大幅100cm、最大深40cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK39は楕円形。南に1段のテラス状を有する。最大幅108cm、最大深42cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK40は円形。最大幅92cm、最大深34cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK41は最大幅182cm、最大深48cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK42は楕円形。最大幅84cm、最大深34cmを測る。



第9図 中須遺跡SK64～SK73平面図・土層図 (S=1/60) 出土遺物図 (S=1/3)

出土遺物

11は須恵器の壺の底部。内面は同心円タタキ、外面はカキ目調整。最大胴部径27.2cmを測る。

SK43はSK17と切り合う。切り合いは不明。最大幅142cm、最大深52cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK44は角丸方形。最大幅142cm、最大深35cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK45は最大幅102cm、最大深36cmを測る。図示していないが土師質土器の小片が2点出土している。

SK46は円形。最大幅46cm、最大深11cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK47は楕円形。最大幅90cm、最大深11cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK48は楕円形。ビット。最大幅40cm、最大深28cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK49は角丸方形。最大幅160cm、最大深28cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK51は楕円形。最大幅62cm、最大深10cmを測る。出土遺物は1点もない。

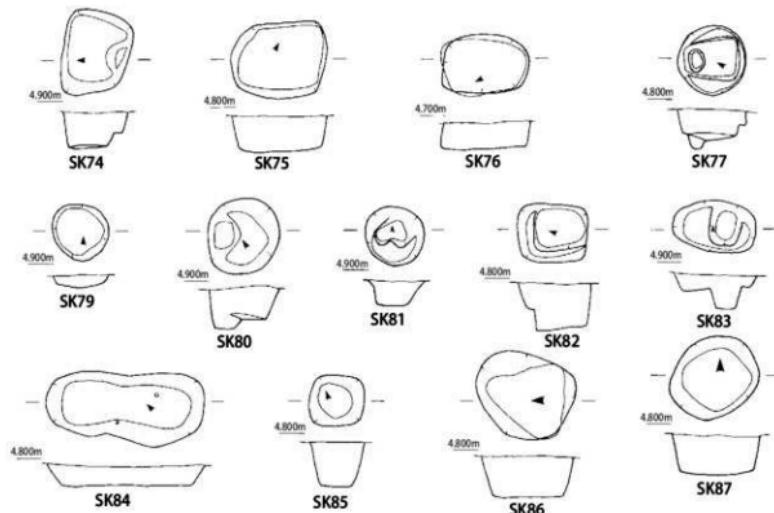
SK53は楕円形。最大幅54cm、最大深8cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK54は楕円形。最大幅100cm、最大深25cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK55はSK115と切り合う。切り合いは不明。角丸方形か。最大幅112cm+ α 、最大深23cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK56は楕円形。南床面に1段の掘り込みを有する。最大幅140cm、最大深31cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK59は円形。最大幅75cm、最大深30cmを測る。出土遺物は1点もない。



第10図 中須遺跡SK74～SK87平面図・土層図 (S=1/60)

SK60は楕円形。東西に1段のテラス状を有する。最大幅70cm、最大深38cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK61は円形。最大幅52cm、最大深33cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK62は円形。最大幅70cm、最大深38cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK63は楕円形。最大幅60cm、最大深21cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK64は楕円形。床面の東西にピットを有する。最大幅132cm、最大深46cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK65は円形。最大幅92cm、最大深39cmを測る。

出土遺物

I2は土師質土器の碗の底部か。底径8cmを測る。内外面とも摩滅が著しく調整は不明。高台はやや内湾する。

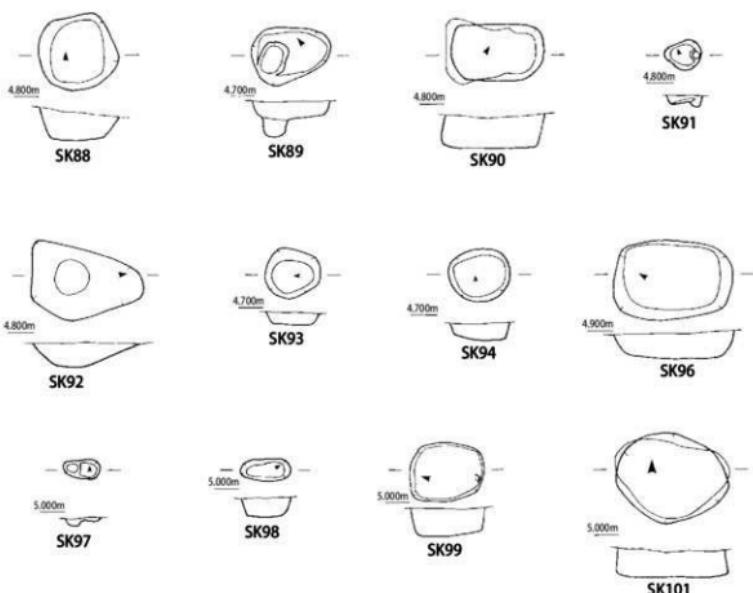
SK66は最大幅96cm、最大深12cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK67は楕円形。最大幅100cm、最大深24cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK68の北側は調査区外で全景は不明である。最大幅106cm、最大深28cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK69はSK116に切られる。全景は不明である。楕円形か。最大幅154cm+α、最大深33cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK70は楕円形。最大幅144cm、最大深40cmを測る。出土遺物は図示していないが須恵器の小片が1点出土している。外面は格子目タタキを施す。



第11図 中須遺跡SK88～SK101平面図・土層図 (S=1/60)

SK71は最大幅96cm、最大深38cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK72は最大幅78cm、最大深47cmを測る。

出土遺物

13は土師器の鉢か。復元口径17.4cmを測る。内外面とも摩滅が著しく調整は不明。

SK73は円形。最大幅80cm、最大深48cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK74は角丸方形。最大幅104cm、最大深43cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK75は角丸方形。最大幅120cm、最大深46cmを測る。出土遺物は1点もない。

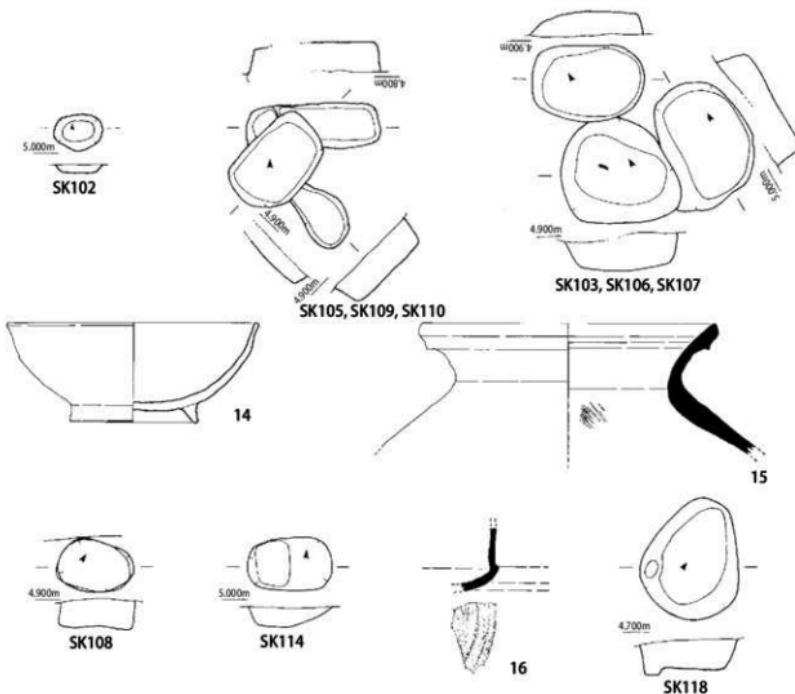
SK76は角丸方形。最大幅106cm、最大深39cmを測る。床面はフラット。出土遺物は1点もない。

SK77は円形。最大幅84cm、最大深50cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK79は梢円形。最大幅70cm、最大深14cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK80は円形。最大幅92cm、最大深48cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK81は円形。最大幅72cm、最大深30cmを測る。出土遺物は1点もない。



第12図 中須遺跡SK102～SK118平面図・土層図 (S=1/60) 出土遺物図 (S=1/3)

SK82は角丸方形。最大幅86cm、最大深58cmを測る。出土遺物は図示していないが須恵器の小片が出土している。内面に同心円タタキ。

SK83は中央部に1基のピットを有する。最大幅104cm、最大深44cmを測る。出土遺物は図示していないが須恵器の小片が出土している。内面に同心円タタキ。

SK84は最大幅196cm、最大深26cmを測る。出土遺物は図示していないが、土師質土器の小片や瓦器の小片が数十点出土している。

SK85は角丸方形。最大幅68cm、最大深54cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK86は最大幅120cm、最大深48cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK87は楕円形。最大幅110cm、最大幅49cmを測る。床面はフラット。出土遺物は1点もない。

SK88は楕円形。最大幅98cm、最大深40cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK89は最大幅100cm、最大深44cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK90は角丸方形。最大幅122cm、最大深43cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK91は最大幅44cm、最大深14cmを測る。出土遺物は図示していないが土師質土器の小片が出土している。

SK92は最大幅138cm、最大深29cmを測る。出土遺物は図示していないが土師質土器、瓦質土器の小片が出土している。

SK93は最大幅68cm、最大深14cmを測る。出土遺物は図示していないが土師質土器の小片が出土している。

SK94は楕円形。最大幅75cm、最大深18cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK96は最大幅148cm、最大深34cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK97は最大幅46cm、最大深8cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK98は最大幅62cm、最大深24cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK99は角丸方形。最大幅90cm、最大深34cmを測る。出土遺物は図示していないが土師質土器の小片が出土している。

SK100はSK17と切り合う。切り合いは不明。最大幅80cm+ α 、最大深32cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK101は最大幅136cm、最大深35cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK102は最大幅60cm、最大深9cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK103はSK106を切る。楕円形で最大幅138cm、最大深31cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK104はSK43と切り合う。切り合いは不明。最大幅130cm、最大深38cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK105はSK109とSK110を切る。楕円形で最大幅124cm、最大深36cmを測る。

出土遺物

14は瓦器碗か。口径15.7cm、器高6.2cm、底径7.7cmを測る。内外面とも摩滅が著しく調整は不明。高台はやや外反ぎみ。

SK106はSK103に切られ、SK107を切る。最大幅147cm、最大深45cmを測る。

出土遺物

15は須恵器の甕の口縁部。復元口径18cmを測る。内面に工具痕か。内外面とも回転ナデを施す。

SK107はSK106に切られる。最大幅148cm、最大深40cmを測る。出土遺物は図示していないが土師

質土器の小片が4点出土している。

SK108は楕円形。最大幅94cm、最大深33cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK109はSK105に切られる。最大幅164cm、最大深34cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK110はSK105に切られる。最大幅82cm+ α 、最大深20cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK111は最大幅150cm、最大深39cmを測る。出土遺物は図示していないが土師質土器の小片が出土している。

SK114は最大幅104cm、最大深25cmを測る。

出土遺物

16は須恵器の器種不明。外面にヘラ記号。屈曲部が外方に張り出す。

SK115はSK55と切り合う。切り合いは不明。楕円形か。最大幅122cm、最大深46cmを測る。出土遺物は1点もない。

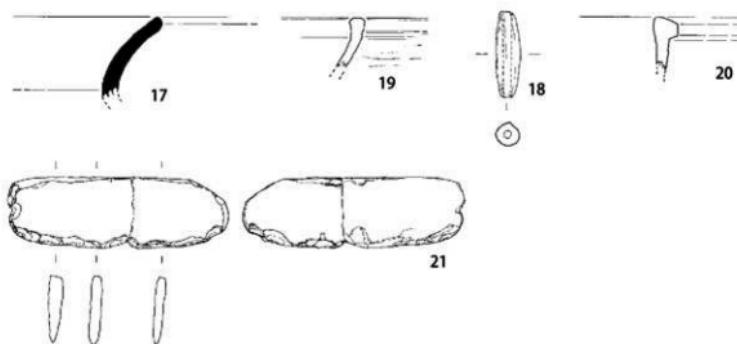
SK116はSK69を切る。またSK117と切り合うが、切り合いは不明である。最大幅140cm+ α 、最大深41cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK117はSK116と切り合う。切り合いは不明。最大幅108cm+ α 、最大深42cmを測る。出土遺物は1点もない。

SK118は最大幅150cm、最大深43cmを測る。出土遺物は1点もない。

一括出土遺物

17は須恵器の壺の口縁部。内外面とも回転ナデ。19は瓦質土器の鉢か。外面はケズリ調整。20は瓦質土器の火鉢か。21は石器か。端部は紐穴か。

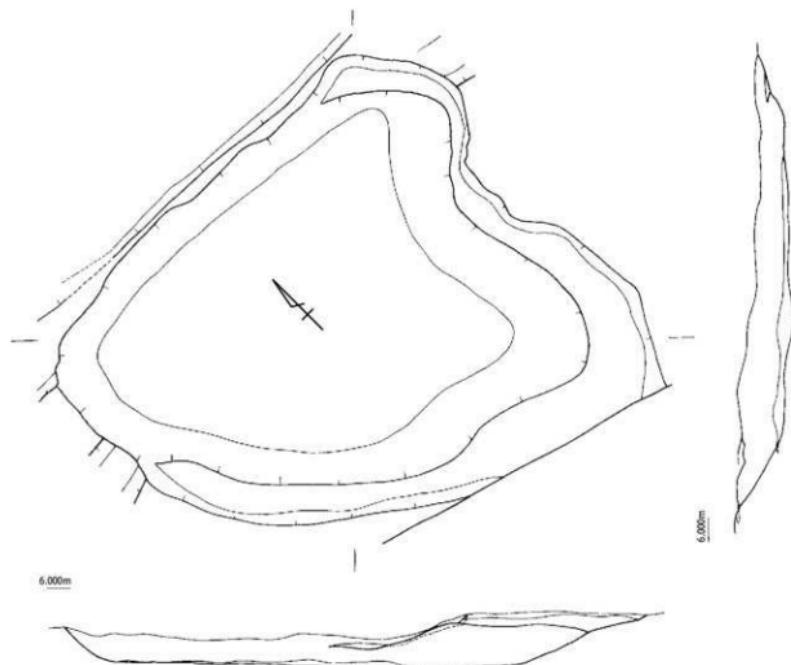


第13図 中須遺跡一括出土遺物図 (S=1/3)

第3章 平成25年度調査・古田遺跡

1、調査に至る経緯

平成24年度、振興局より市内大字植野で農業基盤整備に伴う埋蔵文化財の照会がなされた。対象地周辺は、古田遺跡、停車場遺跡などの周知遺跡が点在し、耕作された水田から土師質の土器小片が確認される状況であった。確認調査を平成25年2月25日～3月11日に実施し、遺跡が確認された。振興局と協議し、工事で削平部分の本調査が決定した。



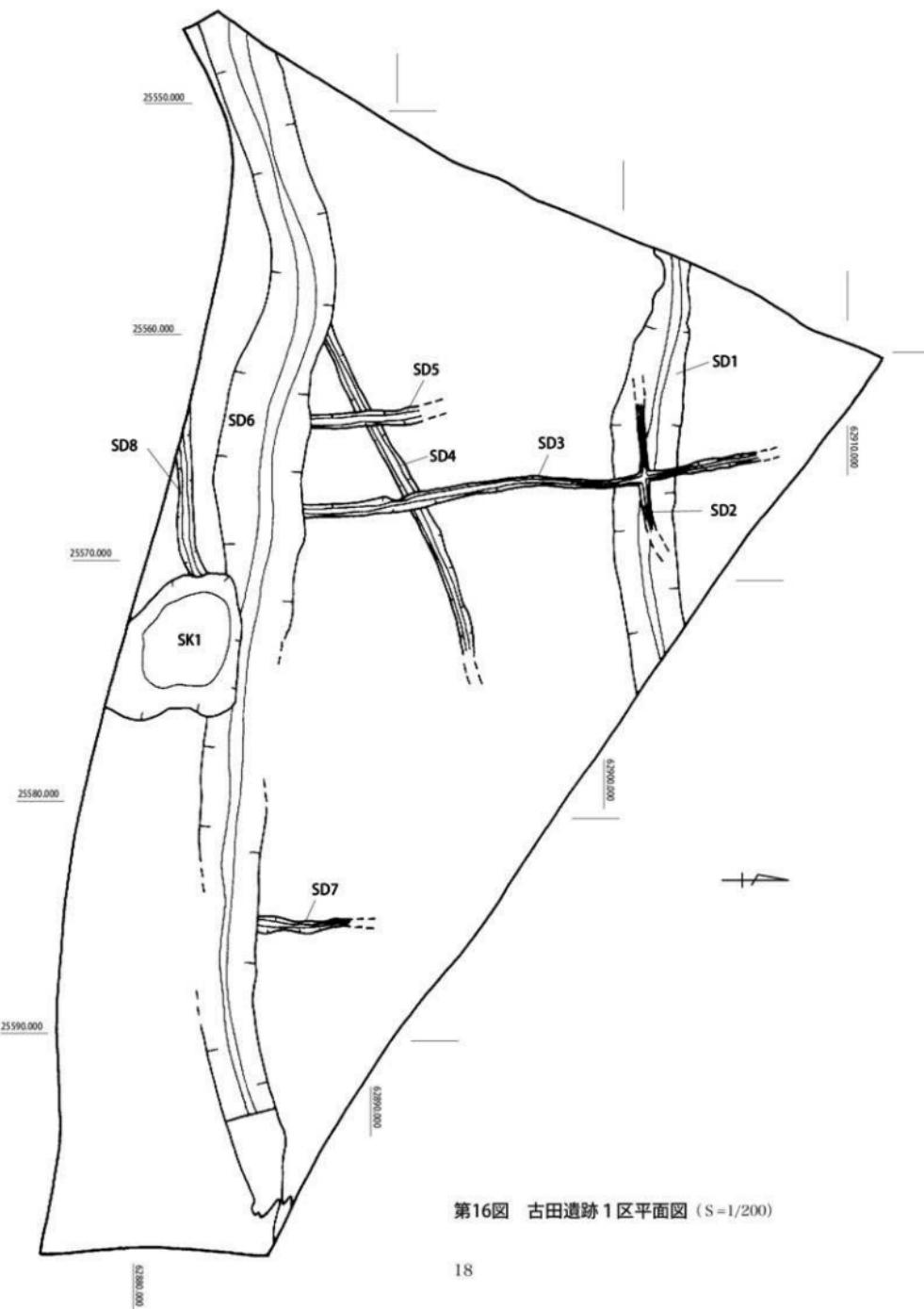
第14図 古田遺跡SK1平面図 (S=1/60)

2、調査の概要

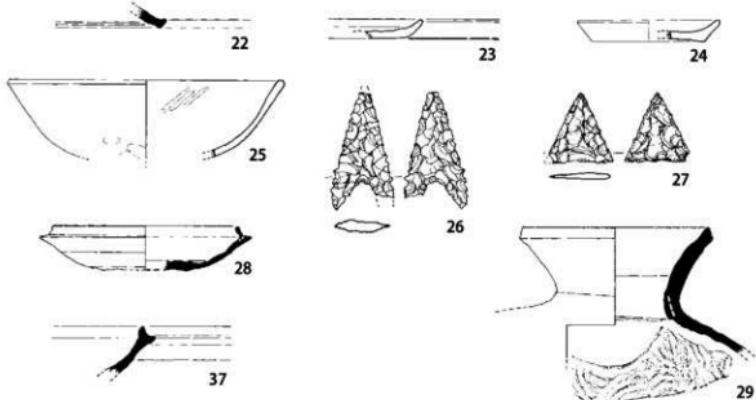
本調査は平成25年8月1日～10月31日まで実施した。調査区は3ヶ所に別れ、第1地点、第2地点、第3地点と命名した。重機で表土剥ぎを実施し、遺構検出を人力でおこなった。検出した遺構を移植ゴテで



第15図 古田遺跡SK1土層図 (S=1/60)



第16図 古田遺跡 1区平面図 (S=1/200)



第17図 古田遺跡1区SK1出土遺物図 (26、27はS=2/3、以外はS=1/3)

掘り下げ、1／20実測図を作成し、土層図、写真撮影等をおこない記録保存した。出土遺物は平成25年度11月より洗浄、注記、復元をおこない、平成26年度に遺物実測、製図等を有限会社九州文化財リサーチに委託した。遺構図の製図をおこない、平成28年度発掘調査報告書を刊行した。

3. 1区

1区で検出された遺構は溝状遺構8条、土坑1基であった。溝状遺構の幅は大小様々で、切り合ひは検出時に平面で確認された。土坑も溝と切り合った状態であった。

土坑（以下SKと表記）

SK1は調査区の中央、南端で検出された。全景は不明である。SD6を切る。最大幅約720cm、最大深約66cmを測る。床面はフラットで、粘質の灰褐色シルト層が堆積する。

出土遺物

22は須恵器の高環か。内外面とも回転ナデ。23、24は土師質土器の小皿。23は器高1.2cmを測る。24は器高1.3cm、復元口径8.6cmを測る。25は瓦器碗。復元口径16.7cmを測る。26、27は石鎚。26の石材はサヌカイトか。脚部外側は鋸歯状。27は安山岩。

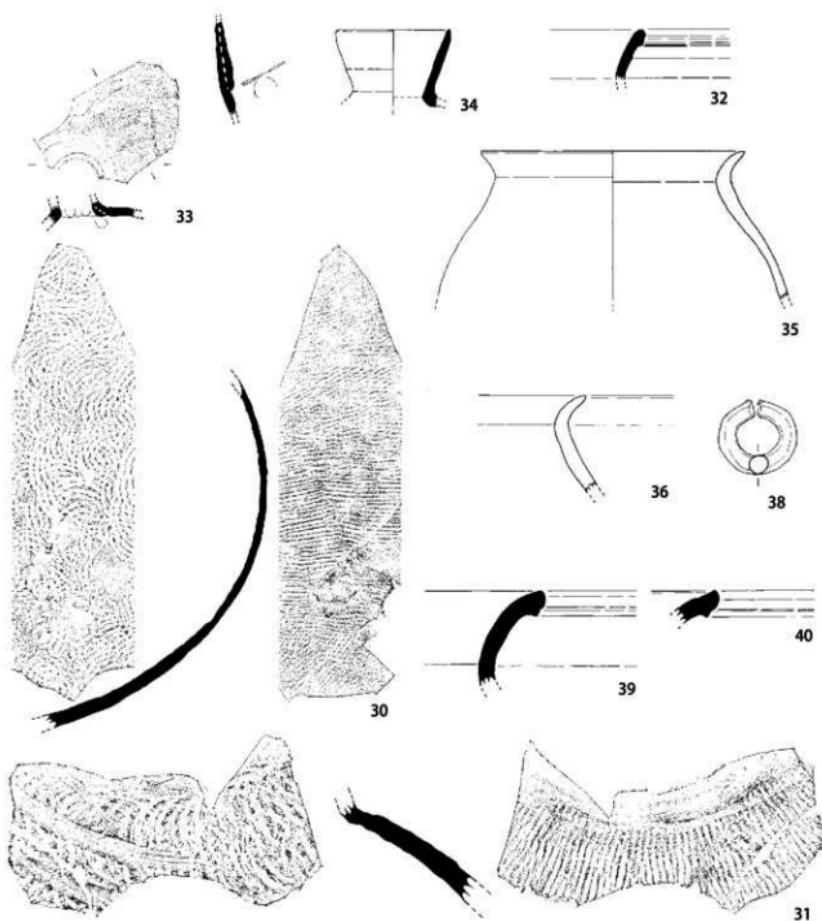
溝状遺構（以下SDと表記）

SD1

SD1は調査区の北側に位置し、SD6と並行にはしる。最大幅約236cm、最大深56cmを測る。SD2、SD3に切られる。

出土遺物

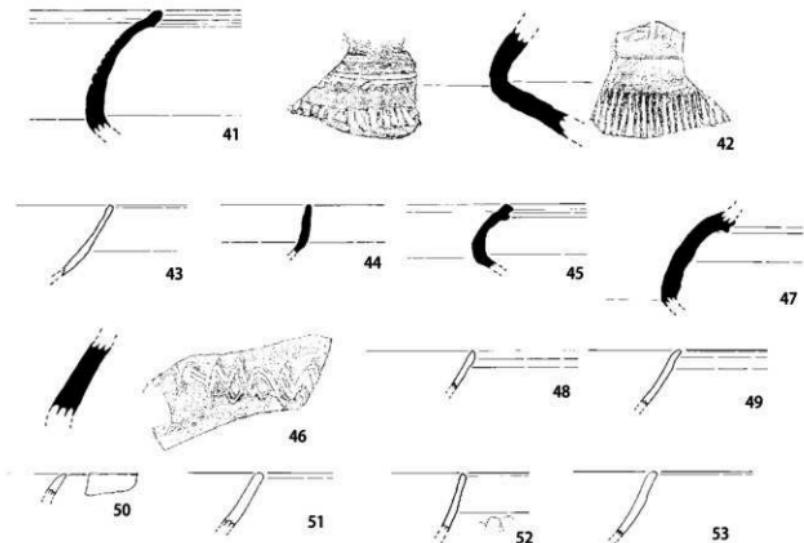
28、29は須恵器の环身。28は復元口径11.2cm。6世紀末～7世紀初頭。30は須恵器の横瓶か。31は須恵器の横瓶。外面はカキ目。ヘラ記号。32は提瓶。復元口径7cm。33～35は須恵器の甕。36、37は土師器の甕。36は復元口径16.2cmを測る。2個体とも摩滅が著しく調整不明。38は耳環。全体に錯か。



第18図 古田遺跡1区SD1、2出土遺物図 (30はS=1/4、38はS=2/3、以外はS=1/3)



第19図 古田遺跡1区SD1、3、6土層図 (S=1/60)



第20図 古田遺跡1区SD3～SD6出土遺物図 (S=1/3)

SD2

SD2は調査区の北側に位置する。最大幅70cm、最大深10cmを測る。SD1を切り、SD3と直交する。出土遺物

39、40は須恵器の甌。内外面とも回転ナデ。

SD3

SD3は調査区を南北方向にはしる。北側は削平される。最大幅30cm、最大深13cmを測る。SD1、SD4を切り、SD6に切られる。

出土遺物

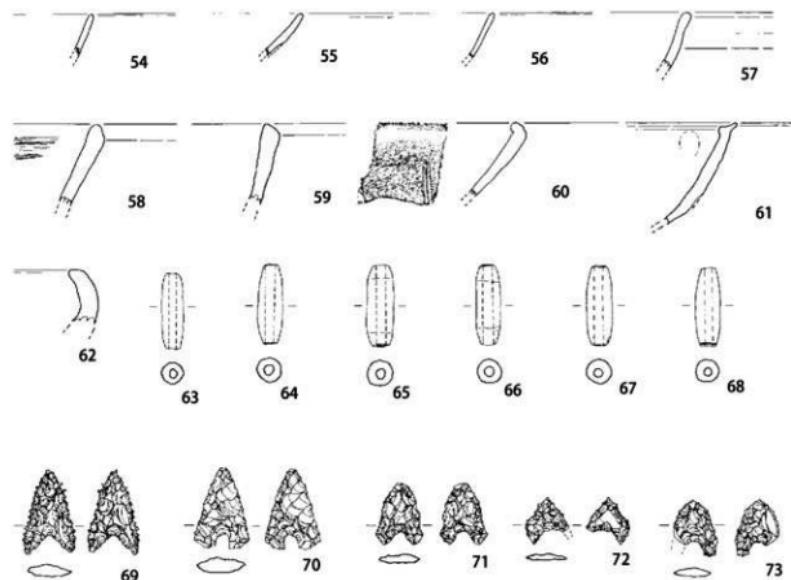
41、42は須恵器の甌。

SD4

SD4は調査区の中央を東西にはしる。最大幅68cm、最大深20cmを測る。SD3、SD5、SD6に切られる。出土遺物は図示していないが、瓦器碗小片、土師質土器小片などであった。

SD5

SD5は調査区の中央やや西に位置する。最大幅70cm、最大深25cmを測る。SD4を切り、SD6に切られる。



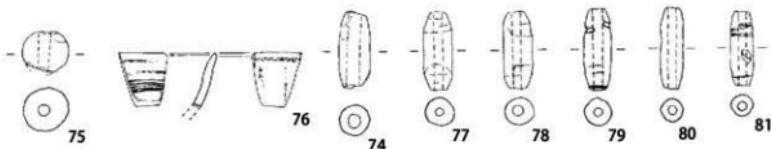
第21図 古田遺跡1区SD6出土遺物図 (69~73はS=2/3、以外はS=1/3)

出土遺物

43は瓦器の碗。摩滅が著しい。

SD6

SD6は調査区の中央を東西方向へはしる。最大幅330cm、最大深40cmを測る。SD3、SD5、SD7を切る。また、SK1に切られる。



第22図 古田遺跡1区一括出土遺物図 (S=1/3)

出土遺物

44は須恵器の高杯か。内外面とも回転ナデ。45～47は須恵器の甕。48、49は白磁の碗。48は11世紀後半～12世紀か。50は青磁の碗。蓮弁中央に稜を有する。51～57は瓦器の甕。58、59は瓦質土器の鉢か。内外面とも摩滅が著しい。60は瓦質土器の擂鉢。61は瓦質土器の鍋。62はタコツボの口縁部。63～68は土錘。67以外は外面にミガキを施す。69～73は石鎌。石材は姫島産黒曜石。図示していないが天目碗の小片が1点出土している。

SD7

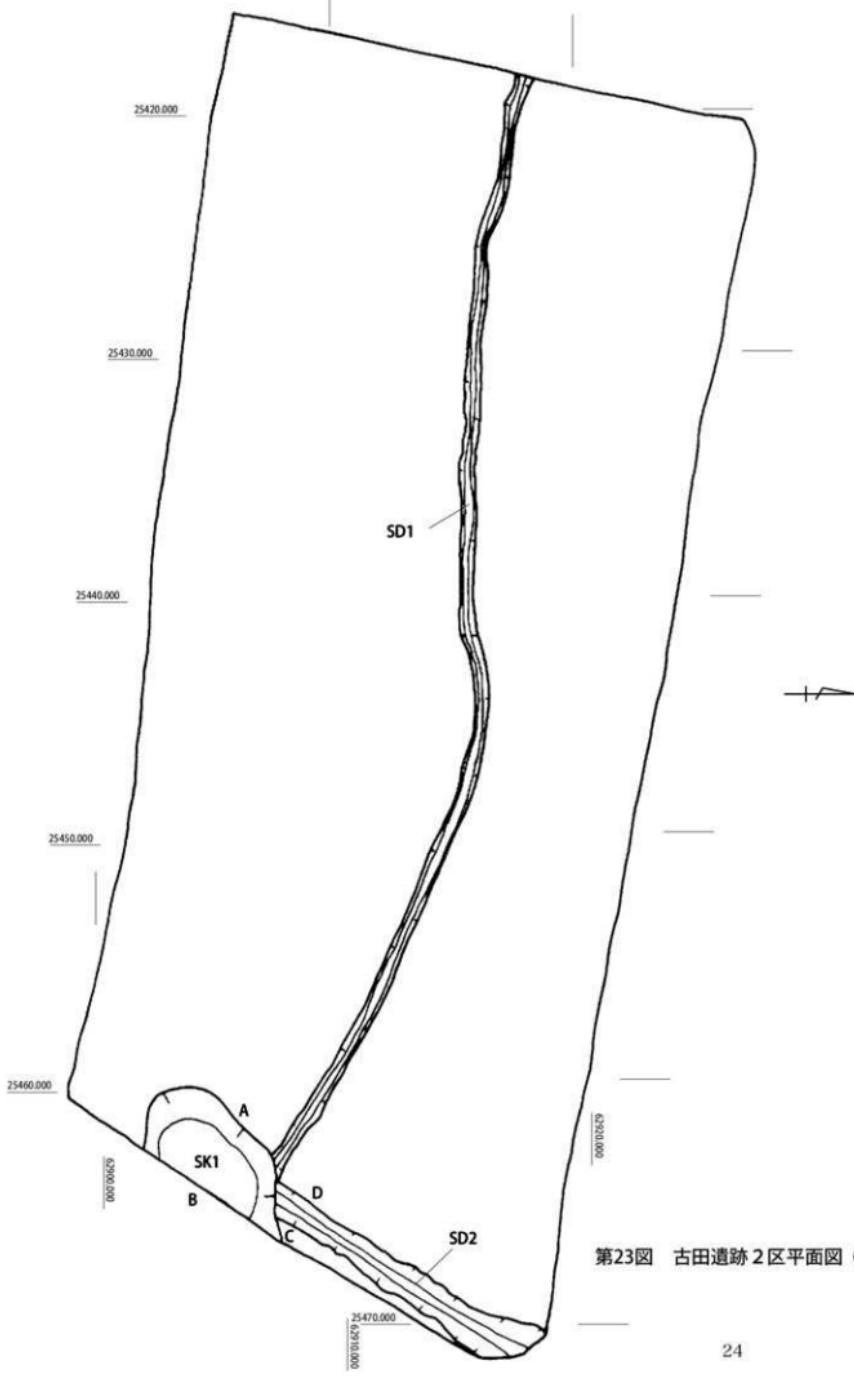
SD7は調査区の中央やや東に位置する。最大幅74cm、最大深12cmを測る。SD6に切られる。出土遺物は1点もない。

SD8

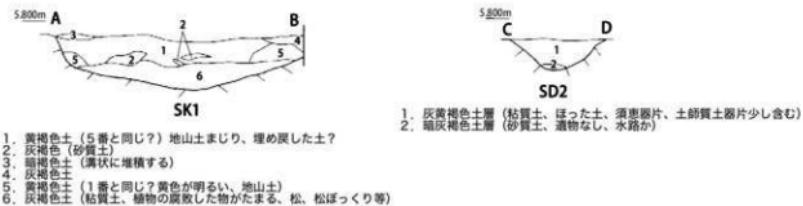
SD8は調査区の南側に位置する。最大幅66cm、最大深12cmを測る。SK1に切られる。出土遺物は図示していないが土師質土器小片が出土している。

1区一括出土遺物

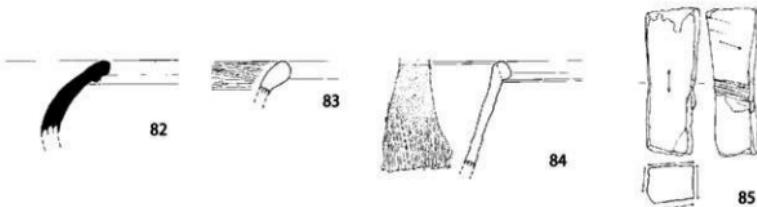
74～81は1区の一括出土遺物。76は青磁の碗。74、75、77～81は土錘。77～81は外面ミガキ。5点は同じ網のものであろうか。



第23図 古田遺跡2区平面図 (S=1/200)



第24図 古田遺跡2区SK1、SD2土層図 (S=1/60)



第25図 古田遺跡2区SK1出土遺物図 (S=1/3)

4、 2区

2区で検出された遺構はSK1基、SD2条である。SKとSDは切り合った状態であった。

SK1

SK1は調査区の東側で検出された。最大幅680cm、最大深68cmを測る。SD1、2を切る。床面はフラットで、暗灰褐色の粘質土が堆積する。

出土遺物

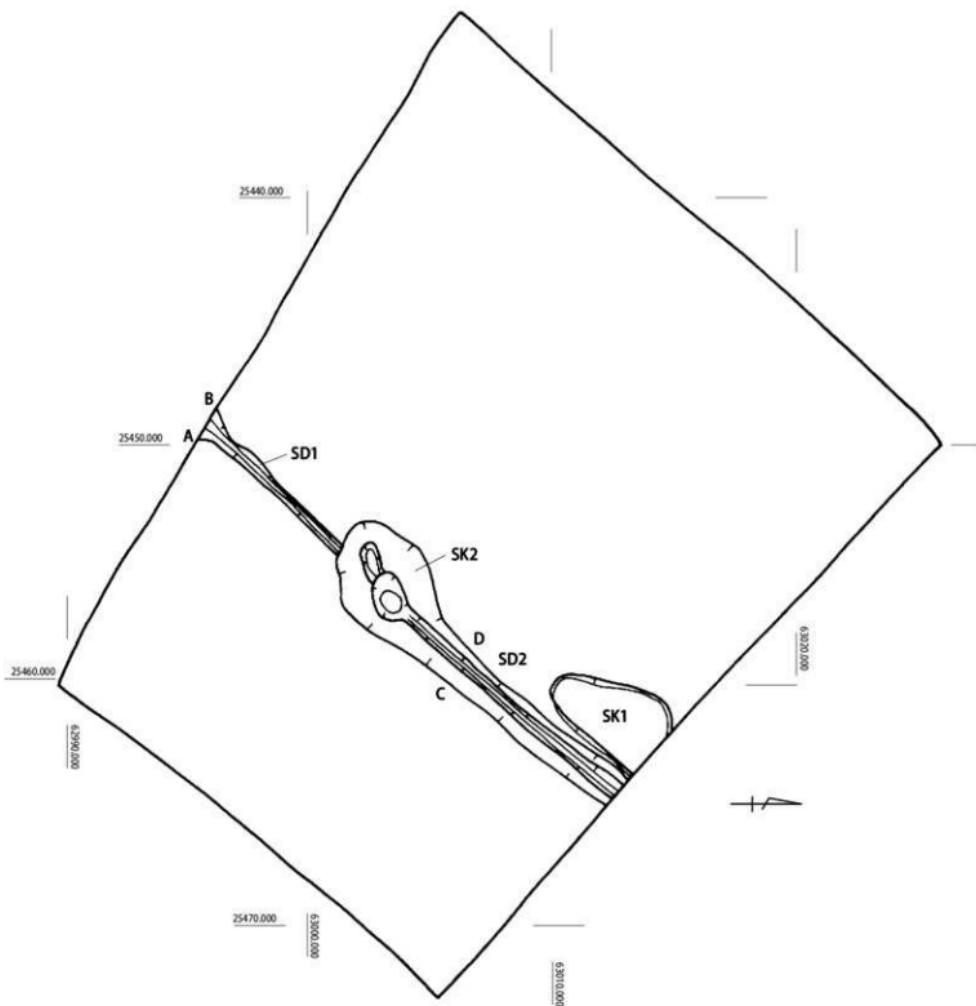
82は須恵器の甕。83は瓦質土器の鉢。内面はミガキを施す。84は陶器の捕鉢。85は砥石。4面すべてに使用痕。また図示していないが江戸期、明治以降の磁器片、陶器片が出土している。

SD1

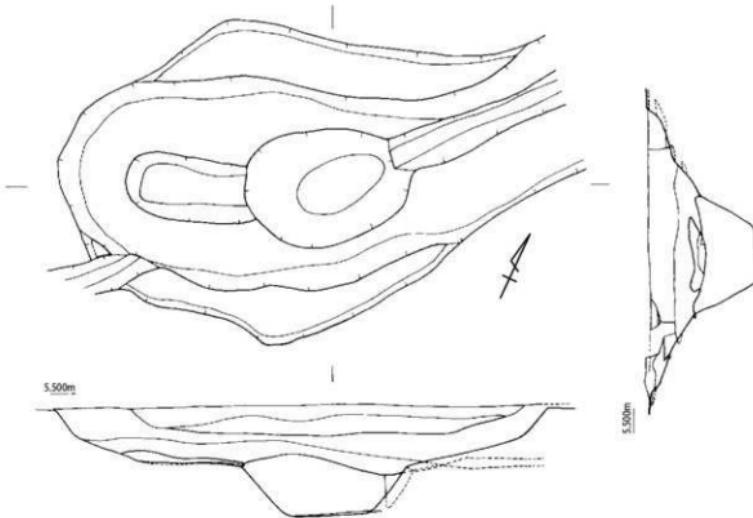
SD1は調査区の中央を東西にはしる。最大幅62cm、最大深15cmを測る。SK1に切られる。出土遺物は図示していないが、土師質土器小片が出土している。

SD2

SD2は調査区の東側に位置する。最大幅122cm、最大深38cmを測る。SK1に切られる。出土遺物は図示していないが、土師質土器の小片が十数点や須恵器の甕の胴部などが出土している。



第26図 古田遺跡3区平面図 (S=1/200)



第27図 古田遺跡3区SK1平面図 (S=1/60)

5、3区

3区で検出された遺構はSK2基、SD1条であった。SKとSDは切り合った状態で検出された。

SK1

SK1は調査区の北側で検出された。梢円形で最大幅484cm、最大深12cmを測る。出土遺物は図示していないが、土師質土器の小片が出土している。

SK2

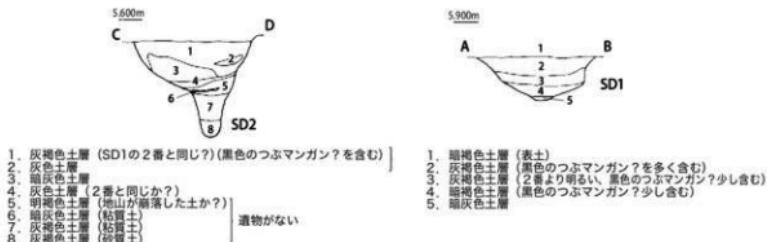
SK2は調査区の中央やや東より検出された。円形で最大幅400cm、最大深122cmを測る。出土遺物

出土遺物

86は須恵器の甕。87～90は石鎌。87、88の石材は姫島産黒曜石。89は安山岩。91はサヌカイト。99はスクレイパー。図示していないが姫島産黒曜石の剥片、瓦質土器小片なども出土している。

SD1

SD1は調査区の南から中央にはしる。SK1と同時期であろうか。最大幅52cm、最大深45cmを測る。またSD2と直線にはしる。SD1とSD2の断面の形状、深さは異なるが同時期に機能していたと推測される。出土遺物は図示していないが、土師質土器小片、姫島産黒曜石剥片などが出土している。



第28図 古田遺跡3区SD1、2土層図 (S=1/60)

SD2

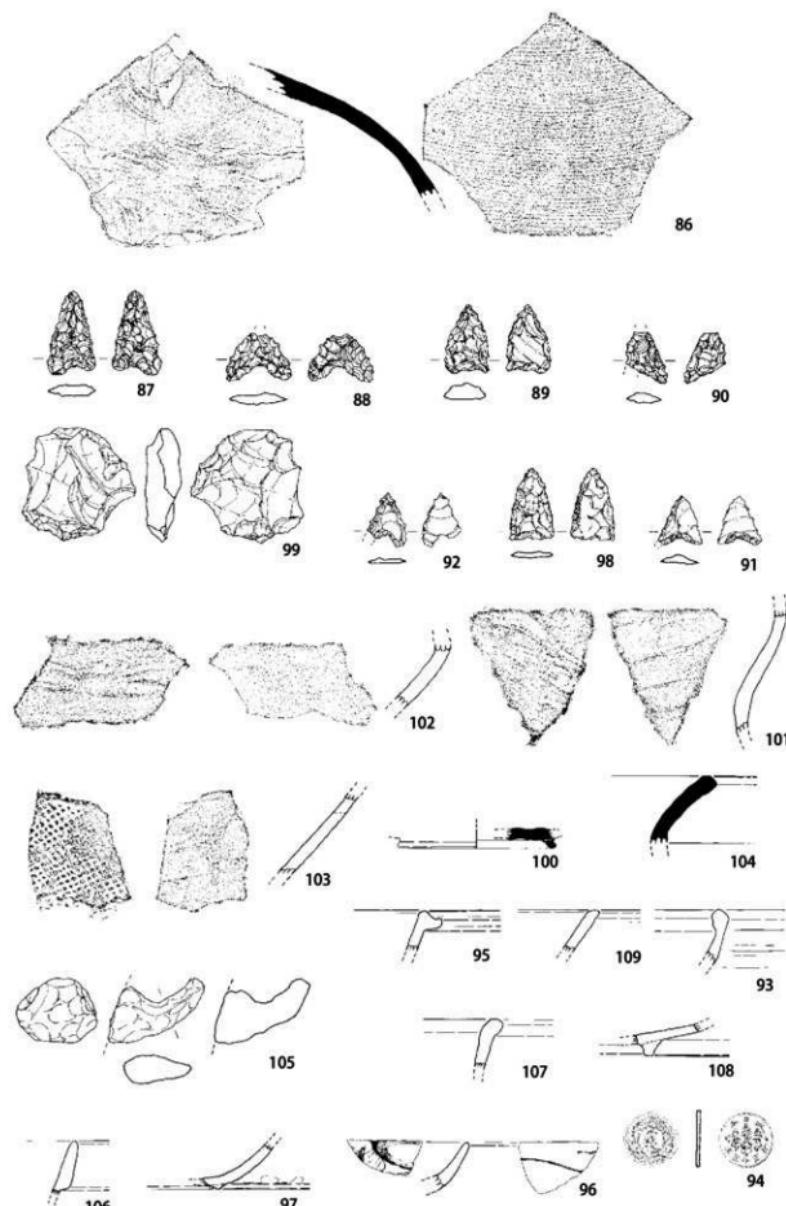
SD2は調査区の中央から北にはしる。最大幅150cm、最大深110cmを測る。断面は『Y』字で底から18cmは砂質層であった。水が流れていると推測される。

出土遺物

91、92は石鐵。92の石材は姫島産黒曜石。91はサヌカイト。図示していないが、姫島産黒曜石や腰岳産黒曜石の剥片も出土している。

一括出土遺物

試掘時、表探資料を図示する。101～103は縄文土器。103は押型文か。100は須恵器の壺。104は須恵器の甕の口縁部。105は土師器の瓶の取手。93、95、109は瓦質土器の鍋。107、108は瓦質土器の鉢か。内外面とも摩滅が著しい。106は土師質土器の鉢か。97は瓦器の碗。96は磁器の皿か。94は一銭硬貨。大日本、大正十三年。



第29図 古田遺跡3区SK2、SD2、一括出土遺物図 (87~92、98、99はS=2/3、94はS=1/2、以外はS=1/3)

第1表 中須遺跡・古田遺跡 遺物観察表

番号	遺構番号	種別	器種	法量 (ml) ()は復元数値				色調 / 色調	胎土 / 石材	調整・装飾		備考	
				口径 / 最大長	高さ / 最大幅	底径 / 最大厚	重量 (g)			内面	外面		
1	中須 SK7 №1・2	土師器	甕	(24.2)	10.0+α	-	-	(内・外) 淡橙	角閃石、長石、3mmの砂岩を少量含む	不明	不明	内外面とも摩滅顯著	
2	H23中須 SK12 №2・6・7	須恵器	甕	(24.0)	15.3+α	-	-	(内・外) 灰	角閃石、長石、白色粒子、砂粒	回転ナデ、同心円タタキ後ナデ	回転ナデ、格子目タタキ後ナデ		
3	中須 SK12 №3	土師器	甕	7.3	9.3	0.5	-	(内) 黄橙～楳 (外) 灰白～浅黄橙、楳～黄 楳	角閃石、長石、白色粒子、白色粒子	ナデ、オサエ	ハケ目、オサエ、ナデ、把手貼付け	器壁が強くなる	
4	中須 SK12 №4・5	土師器	甕?	-	(17.4)	-	-	(内) 楳～黄楳 (外) 黄楳～楳	角閃石、長石、角美、橙色粒子、砂粒	オサエ、ナデ	上半部分ナデ ハケ目、下半部分タテハケ目	(内・外) 器壁が強い、内面上部に一部黒斑あり	
5	中須 SK13 №1・5	土師器	甕	(20.2)	11.5+α	-	-	(内・外) 淡橙	角閃石、白色粒子、長石、1mm以下の砂岩を含む	ナデ	ナデ	(外) 前部被熱あり	
6	H23中須 SK13 №2・3	土師器	甕	-	(17.9)	-	-	(内) 明黄楳～ 黄楳(外) にぶい 黄楳	角閃石、長石、白色粒子、砂粒	オサエ、ケズ リ後ナデ	不明 底部貼付痕	外部一部黒斑あり、磨滅顯著	
7	H23中須 SK26№1 SK28№1	須恵器	甕	-	(13.3)	-	-	(内) にぶい楳 ～楳 (外) 楳～にぶ い楳	長石、角閃石、白色粒子	同心円タタキ	平行タタキ？ (格子目?)	能成不良のため全体に橙色	
8	中須 SK32 №2・4	土師器	甕	-	8.5+α	-	-	(内) 浅黄 (外) 淡橙	白色粒子、角閃石、長石、2mm以下の砂岩を含む	不明	不明	内外面とも摩滅顯著	
9	H23中須 SK36 №1	土師器	鉢	(25.6)	11.1	11.4	-	(内・外) 楳～浅 黄楳	角閃石、石英、長石、橙色粒子、砂粒	不明	不明	内外面とも摩滅あり、内面薄く窪める	
10	中須 SK37 №1	須恵器	甕	(16.0)	3.6+α	-	-	(内) 灰白 (外) 暗青灰	白色粒子、細砂粒	回転ナデ	回転ナデ		
11	中須 SK42 №1	須恵器	甕	-	21.3+α	-	-	(内・外) 灰白	精良 角閃石、長石、白色粒子、砂粒	ヨコナデ、 同心円タタキ	力キ目、ナデ		
12	中須 SK65	瓦器?	碗	-	2.4+α	8.0	-	(内・外) 灰白	角閃石、長石、白色粒子	不明	不明 高台貼付け	内外とも摩滅顯著	
13	中須 SK72	土師器	鉢?	(17.2)	5.2+α	-	-	(内) 淡橙 (外) 暗灰黄	角閃石、長石、雲母、石英	不明	不明	内外とも摩滅顯著	
14	中須 SK105	瓦器	碗	(15.2)	6.2	7.7	-	(内・外) 灰白	角閃石、長石、白色粒子	不明	不明、 高台貼付け	器壁剥離あり	
15	中須 SK106	須恵器	甕	(18.0)	8.0+α	-	-	(内) 明緑灰 (外) 緑灰	細砂粒、 白色粒子、長石	回転ナデ、 工具痕	回転ナデ		
16	中須 SK114	須恵器	环	-	3.8+α	-	-	(内) 外) 青灰	白色粒子	回転ナデ、 回転ヘラケズリ	回転ナデ、 (外) ヘラ記号		
17	中須 21トレ	須恵器	甕	-	5.1+α	-	-	(内) 灰白 (外) 青灰	赤色、白色粒子、角閃石(ごく少)	回転ナデ	回転ナデ		
18	H23中須 水田1-括	土師器	土鍾	5.2	1.5	-	0.5 / 10.68	明褐～褐色	角閃石、長石、 橙色、白色粒子、砂粒	-	ミガキ? 丁寧なナデ、 穿孔	ほぼ完形 穴内側にサビ付着	
19	中須一括	瓦質 土器	鉢?	-	3.0+α	-	-	(内・外) 灰褐	角閃石、長石、 砂岩(少)	ナデ	ナデ、 ケズリ		
20	中須一括	瓦質 土器	鉢	-	3.4+α	-	-	(内) 褐灰 (外) 灰白	角閃石、長石、 雲母、砂岩(0.5mm以下)	ナデ	ナデ	火鉢か?	
21	H23中須 №1	石器	不明	4.4	13.6	0.8	89.37	-	結晶片岩?	-	-	端部に紐穴か? 上下左右にミガキ?	
22	古田1区 SK1	須恵器	高坏?	-	1.2+α	-	-	(内) 灰 (外) 青灰	白色粒子	回転ナデ	回転ナデ	高环底部破片	

番号	遺構番号	種別	器種	法量(cm)()は復元数値					色調／釉調	胎土／石材	調整・装飾		備考
				口径／最大長	器高／最大幅	底径／最大厚	孔深／重量(g)	内面			内面	外面	
23	古田1区 SK1底	土師質 土器	小皿	-	1.2	-	-	(内・外) 淡橙	角閃石・長石、 赤色砂岩	ナデ、 ユビオサエ	ナデ、 底部調整不明	内外面ともやや摩滅	
24	古田1区 SK1底	土筋質 土器	小皿	(8.6)	1.3	(7.0)	-	(内・外) 灰白	角閃石・赤色 砂岩	ナデ	ナデ、 底部調整不明		
25	古田1区 SK1	瓦器	碗	(16.2)	4.7+α	-	-	(内・外)反	角閃石・長石	ミガキ、 ナデ	ミガキ、 ナデ	13c後半頃の低い 高台の瓦器碗と思わ れる	
26	H25古田1区 SK1	石器	石盤	3.6	2.0	0.45	1.86	-	サヌカイト?	脚部外側が 鋸歯状	-	先端と脚部の片方が 欠損する	
27	H25古田1区 SK1	石器	石盤	2.2	2.0	0.3	0.88	-	安山岩	-	-	全体に摩滅あり	
28	古田1区 SD1	須恵器	环身	(11.2)	2.7	-	-	(内)灰 (外)明青灰	磁砂粒、 白色粒子	回転ナデ	回転ナデ、 底部回転ヘラ ケズリ	TK43~209頃か?	
29	古田1区 SD1	須恵器	横瓶?	(11.4)	7.7+α	-	-	(内)灰白~黃 灰 (外)暗灰~黒	角閃石・長石、 白色粒子、砂 粒	回転ナデ、 同心円タタキ	回転ナデ、 タタキ		
30	古田1区 SD1	須恵器	甕	-	(28.5)	-	-	(内・外)灰	精良 角閃石・長石、 白色粒子	同心円タタキ	平行タタキ、 ハケ目		
31	H25古田1区 SD1-2	須恵器	甕	-	(6.5)	-	-	(内・外) 灰白~灰	精良 白色粒子、長 石	同心円タタキ、 ナデ	ヨコナデ、ナ デ、タタキ、平 行タタキ		
32	古田1区 SD1	須恵器	甕	-	3.1+α	-	-	(内)青灰 (外)灰白	白色粒子、 長石	回転ナデ	回転ナデ		
33	古田1区 SD1	須恵器	横瓶	-	(2.6)	-	-	(内)灰白~灰 (外)灰白	角閃石、 白色粒子	オサエ、ナデ、 回転ナデ	カキ目	(外)器壁に剥離あ り、ヘラ記号	
34	古田1区 SD1	須恵器	提瓶	(6.8)	4.7+α	-	-	(内・外)灰	白色粒子、 磁砂粒	回転ナデ	回転ナデ	(外)やや摩滅	
35	古田1区 SD1	土師器	甕	(16.0)	9.1+α	-	-	(内)灰白、淡橙 (外)灰白	角閃石、 長石	不明	不明	内外面とも摩滅顯著	
36	古田1区 SD1	土師器	甕	-	6.0+α	-	-	(内・外)淡黄橙	角閃石、 長石	不明	不明	内外面とも摩滅顯著	
37	古田1区 SD1	須恵器	环身	-	2.9+α	-	-	(内)淡黄橙 (外)灰白	角閃石・赤色 粒子	回転ナデ	回転ナデ	焼成不良、全体的に 剥離顯著	
38	H25古田1区 SD1No1	鉄器	耳環	2.2	2.4	0.6	12.1	-	-	-	-	-	全体サビ付着
39	古田1区 SD2	須恵器	甕	-	5.8+α	-	-	(内)灰白 (外)灰	白色粒子、 黑色粒子	回転ナデ	回転ナデ		
40	古田1区 SD2	須恵器	甕	-	2.0+α	-	-	(内)青灰 (外)明青灰	白色粒子、長 石	回転ナデ	回転ナデ		
41	古田1区 SD3	須恵器	甕	-	7.6+α	-	-	(内・外) 明綠灰	黑色粒子、角 閃石、砂岩少 量含む	回転ナデ	回転ナデ	内外面とも剥離顯著	
42	古田1区 SD3	須恵器	甕	-	(6.9)	-	-	(内・外) 灰白	磁砂粒、 長石	タテナデ、 ヘラケズリ、 回転ナデ、 平行タタキ後 ナデ	回転ナデ、 平行タタキ後 ナデ		
43	古田1区 SD5	瓦器	碗	-	4.4+α	-	-	(内・外) 灰、灰白	角閃石、 長石	ナデ	ナデ	全体的にやや摩滅	
44	古田1区 SD6	須恵器	高环?	-	2.9+α	-	-	(内・外) 青灰	白色粒子、 赤色粒子	回転ナデ	回転ナデ		
45	古田1区 SD6	須恵器	甕	-	3.9+α	-	-	(内)灰白、青灰 (外)暗青灰	角閃石、 白色粒子	回転ナデ	回転ナデ		

番号	遺構番号	種別	器種	法量(cm)()は復元数値				色調／釉調	胎土／石材	調整・装飾		備考
				口径／最大長	器高／最大幅	底径／最大厚	孔徑／重量(g)			内面	外面	
46	古田1区SD6	須恵器	甕	-	(4.5)	-	-	(内・外)灰	細砂粒	ヨコナデ	柳垣波状文、ヨコナデ等部振波状文	(外)部分的に自然釉残る
47	古田1区SD6	須恵器	甕	-	5.9+α	-	-	(内)明青灰(外)青灰	白色粒子・長石	回転ナデ	回転ナデ	
48	古田1区SD6	白磁	碗	-	2.4+α	-	-	(胎)灰白(胎)灰白の透明釉	精良	施釉	施釉	玉縁口縁の白磁碗(I 1後半～12c前半、IV類?)
49	古田1区SD6	白磁	碗	-	3.4+α	-	-	(胎)灰白(胎)灰白の透明釉	精良 微細な黒色粒子	施釉	施釉	
50	古田1区SD6	青磁	碗	-	1.3+α	-	-	(胎)灰(胎)オリーブ灰の透明釉	精良	施釉	施釉	蓮井中央に横(頸)を有する(I・b類?)龍泉窑青磁
51	古田1区SD6	瓦器	碗	-	3.4+α	-	-	(内・外)灰白、灰	角閃石・長石、白色粒子	ナデ	ナデ	
52	古田1区SD6	瓦器	碗	-	3.6+α	-	-	(内)灰、明才リーピング(外)灰、灰白	角閃石・長石、砂粒	ナデ、オサエ	ナデ、オサエ	
53	古田1区SD6	瓦器	碗	-	4.0+α	-	-	(内)灰白(外)灰白、灰	白色粒子・長石、砂粒含む	不明	不明	内外面とも摩減著
54	古田1区SD6	瓦器	碗	-	2.7+α	-	-	(内)暗灰(外)暗灰、灰白	角閃石・長石、砂粒	不明	不明	内外面とも摩減著
55	古田1区SD6	瓦器	碗	-	2.6+α	-	-	(内)灰白、灰(外)灰	角閃石・長石、砂粒	ナデ	ナデ	外面剥離あり
56	古田1区SD6	瓦器	碗	-	2.8+α	-	-	(内)浅黄橙、褐色(外)灰白、褐色	角閃石・長石、砂粒	ナデ	ナデ	
57	古田1区SD6	瓦器	碗	-	3.6+α	-	-	(内・外)灰白、褐色	角閃石・長石、砂粒	ナデ	ナデ	内外面ともやや摩減
58	古田1区SD6	瓦質土器?	鉢?	-	5.1+α	-	-	(内)黒褐(外)灰白	角閃石・細砂粒	ヨコハケ目	不明	外面や摩滅
59	古田1区SD6	瓦質土器?	鉢?	-	5.0+α	-	-	(内)にぶい黄褐(外)にぶい褐	石英、砂粒	不明	不明	内外面とも摩減
60	古田1区SD6	瓦質?	擂鉢	-	4.5+α	-	-	(内・外)灰白	角閃石・長石、砂礫	ヨコナデ	ナデ	(内)擂目(外)摩滅あり
61	古田1区SD6	瓦質	鏡	-	6.3+α	-	-	(内)黄褐(外)にぶい黄褐	角閃石・砂粒	ヨコハケ、ユビオサエ、ナデ	ナデ	(外)使用によるコゲが付着
62	古田1区SD6	土師器?	銷壺?	-	3.2+α	-	-	(内)灰白(外)灰	角閃石・砂粒	不明	不明	(外)摩滅あり
63	H25古田1区SD6	土製品	土睡	4.61	1.3	-	0.5 / 11.3	にぶい赤褐	砂粒(1mm程度)	-	ミガキ、穿孔	
64	H25古田1区SD6	土製品	土睡	5.0	1.5	-	0.5 / 11.28	にぶい橙	細砂粒	-	ミガキ、穿孔	
65	H25古田1区SD6	土製品	土睡	5.0	1.6	-	0.55 / 14.2	橙	細砂粒	-	ミガキ、穿孔	両端部面取り
66	古田1区SD6	土製品	土睡	4.9	1.5	-	0.6 / 12.16	黄橙	細砂粒	-	ミガキ、穿孔	両端部面取り
67	H25古田1区SD6	土製品	土睡	4.9	1.5	-	0.5 / 12.45	淡黄	細砂粒	-	ナデ、穿孔	
68	H25古田1区SD6	土製品	土睡	4.8	1.4	-	0.4 / 11.8	浅黄橙	細砂粒	-	ミガキ、穿孔	両端部面取り
69	H25古田1区SD6	石器	石轆	2.65	1.7	0.4	1.05	-	姫島產黑曜石	両側縫部裏 歯状、先端部左右に突起がある	-	両面とも風化する

番号	遺構番号	種別	器種	法量(cm)()は復元寸法					色調 / 色調	胎土 / 石材	調整・装飾		備考
				口径 / 最大長	高さ / 最大幅	底径 / 最大厚	孔徑 / 重量(g)	内面			外面		
70	H25古田1区SD6	石器	石錐	2.5	1.7	0.5	1.19	-	姫島産黒曜石	-	-	-	両面とも風化する
71	古田1区SD6	石器	石錐	1.9	1.45	0.3	0.6	-	姫島産黒曜石	-	-	-	先端欠損、両面ともに風化する
72	古田1区SD6	石器	石錐	1.45	1.3	0.2	0.23	-	姫島産黒曜石	-	-	-	上半分が削断したものを再加工する。脚部側が欠損する
73	古田1区SD6	石器	石錐	1.8	1.4	0.3	0.57	-	姫島産黒曜石	-	-	-	脚部の一部が欠損する
74	H25古田1区表探	土製品	土錐	4.8	1.9	-	0.8/13.09	淡橙	細砂粒	-	ナデ、穿孔	-	
75	H25古田1区表探	土製品	土錐	2.4	2.8	-	0.65/17.16	橙	角閃石、長石、細砂粒	-	ナデ、穿孔	-	一部欠損
76	古田1区一括	青磁	碗	-	3.6+α	-	-	(施)灰白 (施)オリーブ 灰の透明釉	やや精良	施釉	施釉	-	
77	古田1区一括	土製品	土錐	4.8	1.7	1.7	0.5/17.55	橙～明赤褐	砂粒	-	ヨコナデ後ミ ガキ、穿孔	-	被熱による黒斑あり 両端部面取り
78	古田1区一括	土製品	土錐	4.8	1.8	1.7	0.6/15.53	黄橙～橙	橙色粒子、砂 粒	-	ヨコナデ後ミ ガキ、穿孔	-	ヨコナデ後ミ ガキ、穿孔
79	古田1区一括	土製品	土錐	5.0	1.7	1.7	0.5/15.68	橙	精良 砂粒、白色粒子	-	丁寧なミガ キ、穿孔	-	製作過程についた? 柔軟二条が一回す る、被熱による黒斑
80	古田1区一括	土製品	土錐	5.0	1.4	1.4	0.5/11.84	橙	精良	-	丁寧なミガ キ、穿孔	-	
81	古田1区一括	土製品	土錐	4.5	1.4	1.4	0.5/10.93	明褐	精良	-	丁寧なミガ キ、穿孔	-	製作過程についた? 柔軟あり 両端部面取り
82	古田2区SK1	須恵器	甕?	-	4.8+α	-	-	(内)灰 (外)灰白～灰	角閃石、黒色 粒子	回転ナデ	自然釉	-	
83	古田2区SK1	瓦質土器?	鉢?	-	2.2+α	-	-	(内・外)橙	角閃石、長石、 橙色粒子、白 色粒子	ミガキ	回転ナデ	-	
84	古田2区SK1	陶器	擂钵	-	6.9+α	-	-	(内・外) にぶい赤褐～ 赤褐	白色粒子、橙 色粒子、砂 粒	回転ナデ、磨 り目	回転ナデ	-	
85	古田2区SK1	石器	砾石	9.4	3.4	3.2	142.0	-	-	-	-	-	四面すべてに使用 痕、上下面も使用し たか?
86	古田3区SK2	須恵器	甕?	-	(7.9)	-	-	(内)赤橙～赤 (外)淡赤橙～ にぶい橙	白色粒子、砂 粒	同心円タタ キ、ナデ	力目	-	
87	古田3区SK2	石器	石錐	2.6	1.5	0.35	1.7	-	姫島産黒曜石	基部両側縁 に埋み	-	-	輪との結合に間違す る加工か?
88	H25古田3区SK2	石器	石錐	1.5	2.0	0.4	0.75	-	姫島産黒曜石	-	-	-	先端部欠損、摩滅あ り
89	古田3区SK2	石器	石錐	2.1	1.4	0.5	1.45	-	安山岩	-	-	-	全体摩滅する
90	古田3区SK2	石器	石錐	1.6	1.3	0.3	0.48	-	姫島産黒曜石	-	-	-	先端と脚部側が欠 損
91	古田3区SD2	石器	石錐	1.5	1.35	0.3	0.34	-	サヌカイト	-	-	-	脚部片側の先端がこ くわざかに欠損
92	古田3区SD2	石器	石錐	1.7	1.2	0.2	0.38	-	姫島産黒曜石	-	-	-	脚部片側の先端がこ くわざかに欠損
93	古田3区カク乱1	瓦質土器	鍋	-	3.5+α	-	-	(内)橙～黄橙 (外)黄橙～橙、 黒褐	角閃石、長石、 白色粒子、橙 色粒子	回転ナデ	回転ナデ、ケ ズリ	-	

番号	遺構番号	種別	器種	法量(cm)()は復元寸法					色調／釉調	胎土／石材	調整・装飾		備考
				口径 / 最大長	高さ / 最大幅	底径 / 最大厚	孔徑 / 重量(g)	内面			外面		
94	古田1区 カク乱1	瓶	一絃 硬質	2.3	2.3	0.1	3.53	-	-	大日本 大正十三年	一絃		
95	古田5トレ	瓦質 土器	鍋	-	2.5+α	-	-	(内)黄褐色 (外)橙～明褐色	長石、角閃石、 白色粒子	不明	不明	摩滅顯著	
96	古田10トレ	磁器	皿?	-	3.0+α	-	-	(胎)灰白 (胎)透明	精良	施釉	施釉		
97	古田14トレ	瓦器	碗	-	2.9+α	-	-	(内)灰黃褐色～ にぶい黃褐色、 浅黃 (外)淡黃～淺黃	角閃石、 長石、砂粒	不明	不明 高台貼付け	磨滅のため調整不明	
98	古田17トレ SX1	石器	石錐	2.2	1.4	0.2	0.97	-	サヌカイト	-	-	両面ともに風化する	
99	古田17トレ SX1	石器	スク レイ バー	3.5	3.5	1.1	12.71	-	サヌカイト	-	-		
100	古田32トレ	須恵器	壺身	-	1.2+α	(9.8)	-	(内)灰褐色～ にぶい赤褐色 (外)橙～明赤褐色	長石、 白色粒子	回転ナデ	回転ナデ、 高台貼付け		
101	H24古田 表探	織文	深鉢	-	(8.0)	-	-	(内)褐 (外)にぶい褐色	石英、角閃石、 砂粒	ナデ	不明	(外)摩滅あり	
102	H25古田 (五十石川河 原)表探	織文	鉢	-	(4.0)	-	-	(内)にぶい赤 褐色 (外)暗赤褐色	角閃石、砂粒、 海綿骨針	ナデ	ナデ、沈線?	織文後期? (外)摩滅あり	
103	H24古田 表探	織文	鉢	-	(4.9)	-	-	(内)灰黃褐色 (外)黃灰	角閃石、砂粒	ナデ?	押型文?	押型文土器?	
104	古田表探	須恵器	甕	-	4.1+α	-	-	(内・外)黄灰	精良 砂粒ごく少量	回転ナデ	回転ナデ		
105	古田表探	土師器	甕	4.0	5.0	1.7	-	橙～明赤褐色	長石、角閃石、 白色粒子	-	ユビオサエ、 ナデ	把手部分のみ	
106	古田表探	土師器?	鉢?	-	3.3+α	-	-	(内)黄褐色 (外)橙	石英、長石、角 閃石、白色粒子、 橙色粒子	回転ナデ	回転ナデ、 タテナデ	内外面ともやや摩滅	
107	古田表探	瓦質?	鉢?	-	3.1+α	-	-	(内)にぶい褐 褐色 (外)褐色	長石、角閃石、 白色粒子	ナデ、 オサエ	ナデ、 オサエ	内外面ともやや摩滅	
108	古田表探	瓦質?	鉢?	-	2.0+α	-	-	(内・外) 黄褐色	角閃石、長石、 棕色粒子	不明	不明	内外面とも摩滅顯著	
109	古田3区 一括	瓦質 土器	鍋	-	2.7+α	-	-	(内・外) 褐灰～灰黃褐色	角閃石、長石、 白色粒子、黑色 粒子、砂粒	不明	高台貼付け 不明	内外面とも摩滅あり	

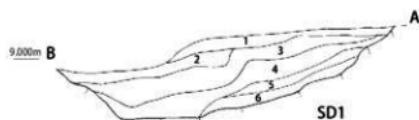
第4章 平成27年度調査・佐間殿遺跡

1、調査に至る経緯

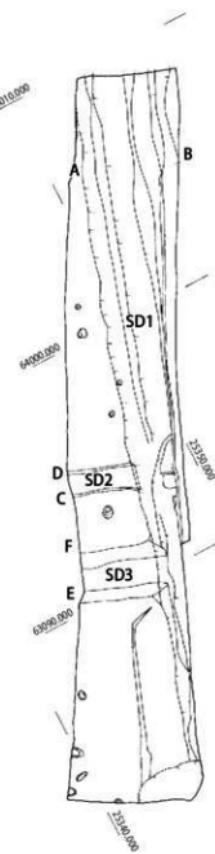
平成26年10月、大分県北部振興局より中津市大字鍋島1453他で県営農道整備事業の計画が中津市教育委員会になされた。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、地形から遺跡の存在が推測された。試掘調査を実施した結果、遺構が確認された。遺構は堀と推測され、大分県北部振興局と協議し、本発掘調査の実施が決定した。

2、調査の概要

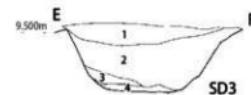
本発掘調査は平成27年8月18日～10月15日まで実施された。調査区内で3本の溝状遺構、ピット数基が発掘された。溝状遺構は切り合いを確認し、土層図、平面図を記録した。溝状遺構からパンケース8箱分の遺物が出土した。



1. 岩褐色土層 (ほった土 道路面か? 炭化物少しあり)
2. 皮褐色土層 (ほりうじ)
3. 明褐色土層 (近代の遺物を含む)
4. 暗褐色土層 (ほった土 炭化物少しある)
5. 褐色土層 (粘質土 黄色 ブロック少し含む)
6. 褐色土層 (粘質土 黄色 ブロックなし)



第30図 佐間殿遺跡平面図 (S=1/200)

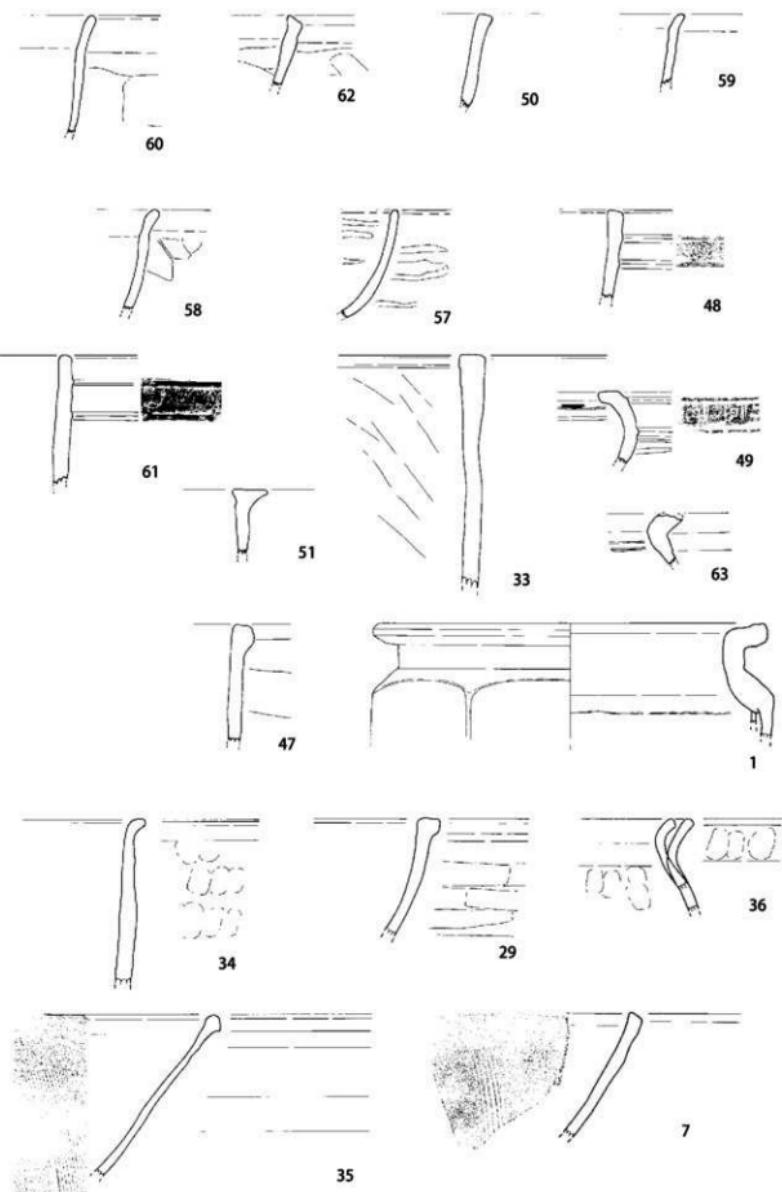


1. 蘭褐色土層 (黄色土 (地山?) ツブ少しまじり) 粘質土
2. 蘭褐色土層 (黄色土 (地山?) ツブ多く含む)
3. 黒褐色土層 (地の崩落した土)
4. 黄褐色土層 (溝の崩落した土)

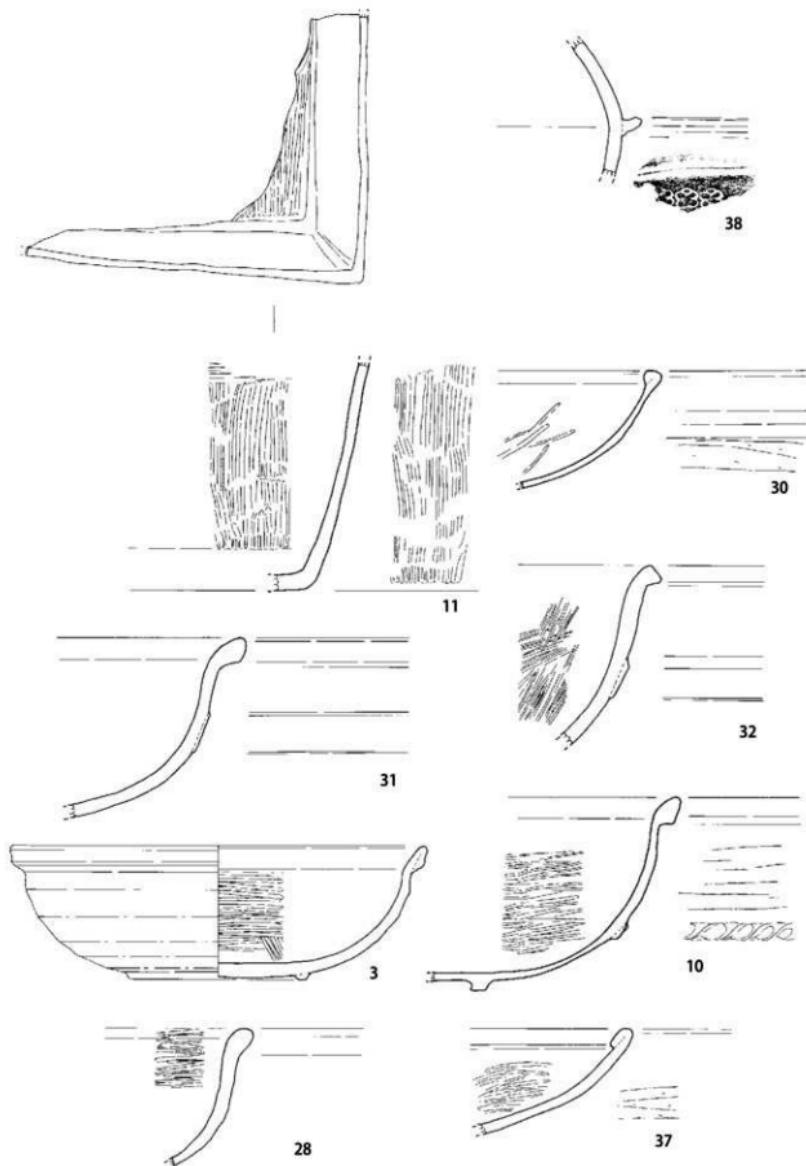


1. 蘭褐色土 (地山土まじり)
2. 蘭褐色土 (地山土なし)
3. 黄色土 (暗褐色土のブロック)

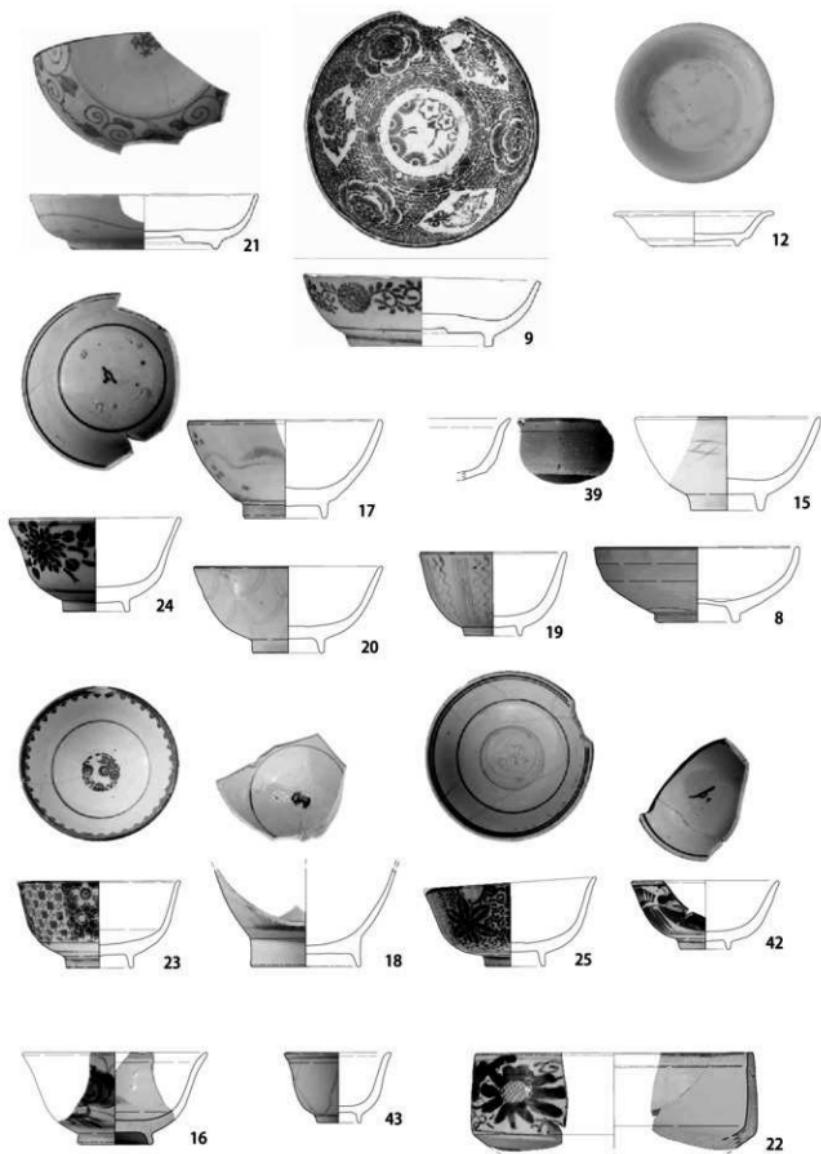
第31図 佐間殿遺跡SD1~3土層図 (S=1/60)



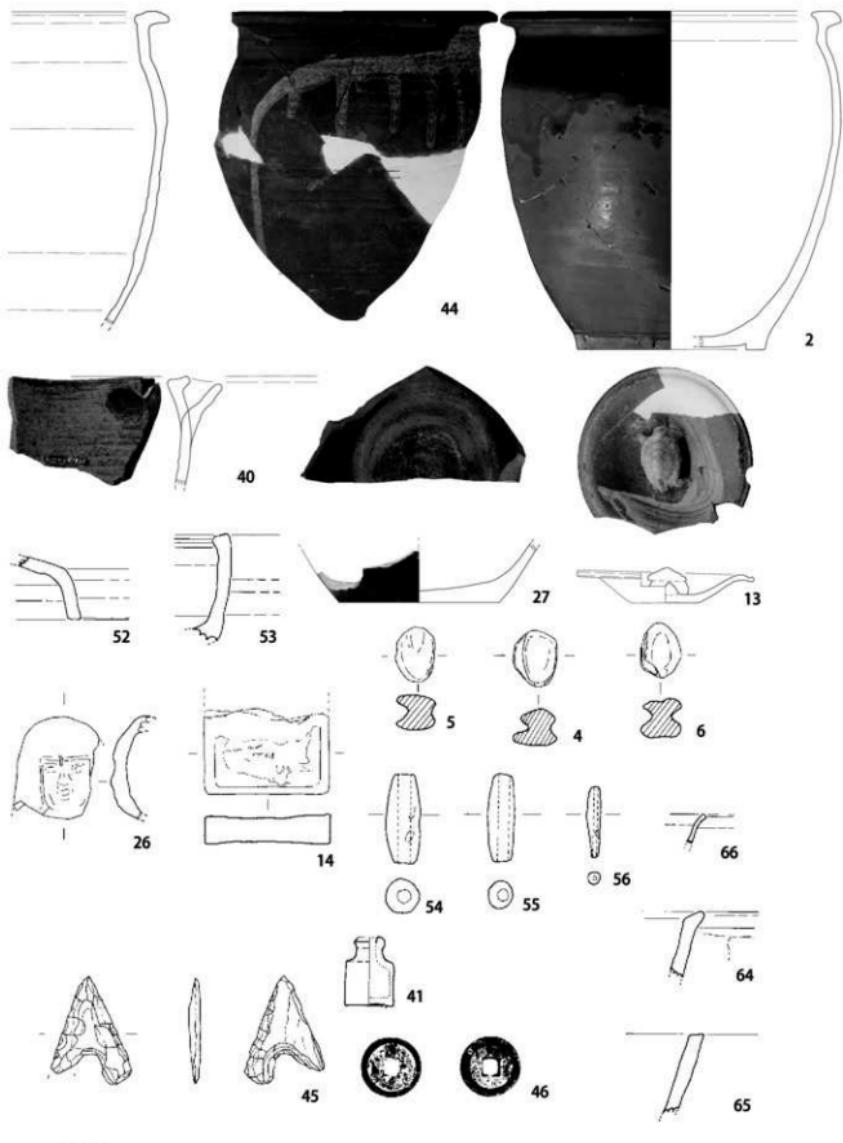
第32図 佐間殿遺跡SD1出土遺物図 (S=1/3)



第33図 佐間殿遺跡SD1出土遺物図 (S=1/3)



第34図 佐間殿遺跡SD1出土遺物図 (S=1/3)



第35図 佐間殿遺跡SD1～3出土遺物図 (S=1/3、45はS=1/1、46はS=1/2)

3、溝状遺構

溝状遺構（以下SDで表記）は3条発掘調査された。

SD1

SD1はSD2、SD3を切る。最大幅約428cm、最大深約135cmを測る。南北方向にはしり調査区南端は攪乱に切られる。古代～近代に至る遺物が出土している。

出土遺物

1から63はSD1からの出土遺物である。1は瓦質土器の火鉢。口径24.2cmを測る。2は陶器の甕。九州産か。3は土師質土器の鉢。口縁部に赤色塗彩を施す。4～6は土鉢。7は瓦質土器の擂鉢。8は陶器の碗。復元口径12.6cm、器高5.2cmを測る。9は陶器の皿。内底面に5カ所の目跡が残る。10は土師質土器の鉢。口縁部に赤色塗彩を施す。11は瓦質土器の鉢。12は磁器の皿。瀬戸美濃産。13は陶器の蓋。肥前系。14は観。15～20は磁器の碗。15は肥前系。17は18C後半。18は広東碗。19は肥前系。18C。20は17C後半。21は磁器の皿。肥前、18C。22は磁器の鉢。復元口径16.5cmを測る。23～25は磁器の碗。23は19C。24は内底面に4カ所の目跡が残る。25は型紙刷。19C末。26は土人形。表面に布目痕が残る。27は陶器の壺。28、29は土師質土器の鉢。30は瓦質土器の鍋。口縁部。31、32は土師質土器の鉢。31、32とも口縁部に突帶を貼りつける。33、34は土師質土器の甕。33は雑なつくり。35は陶器の擂鉢。口縁部。36は土師質土器の壺。37は瓦質土器の鍋。38は瓦質土器の釜。梅花文の施文あり。39は陶器の坏。口縁部。40は陶器の片口。41はガラス製品の瓶。インク瓶か。42、43は磁器の坏。43は完形品。44は陶器の壺。45は石器の石鎌。風化と摩滅が著しい。46は銭。寛永通宝。47～49は瓦質土器の鉢の口縁部。50は瓦質土器の鍋か。51は瓦質土器の鉢。口縁部。52は瓦質土器の蓋か。53は瓦質土器。器種は不明。54～56は土鉢。57は瓦器の碗。内外面ともミガキ。58～60は瓦質土器の鍋、口縁部。61は瓦質土器の鉢、口縁部。62は瓦質土器の鍋。63は瓦質土器の鉢。

SD2

SD2はSD1と直交しSD1に切られる。またSD3と並行にはしる。最大幅約108cm、最大深約35cmを測る。

出土遺物

66は青磁の碗か。

SD3

SD3はSD1と直交しSD1に切られる。またSD2と並行にはしる。最大幅約212cm、最大深約66cmを測る。

出土遺物

64、65は瓦質土器の鍋、口縁部。

ピット

ピットは調査区内で9基発掘された。南側で発掘されたものは植物痕であろう。柱痕が確認されたものは1基もなく、出土遺物は1点もない。

第2表 佐間殿遺跡 遺物観察表

番号	遺構番号	種別	器種	法量(m)()は復元値				色調	釉調	胎土	調整・装飾		備考	分類時期
				口径 / 最大長	高さ / 最大幅	底径 / 最大厚	孔径 / 重量(g)				内面	外面		
1	SD1	瓦質土器	火鉢×香炉	16.7	7.6	—	—	角閃石微粒 少量	ナデ	ナデ・回転ナ デ・スタンプ文	内面、口縁部付近に入 り付着、底部直下に粘 土付痕			
2	SD1	陶器	壺	17.1	20.7	(11.4)	—						全体の3/4残存	九州産
3	SD1	土師質土器	鉢	—	8.2	11.0	—	内外・緑茶色	長石・角閃石・ 白色粒子・砂 粒	ミガキ ヨコナデ	ナデ・ヨコナ デ・回転ヘラ ケズリ	底部完全存、口縁部～体 部1/6残存、口縁部赤 色塗彩		
4	SD1		土罐	3.4	2.7	2.15	15.17						完存	
5	SD1		土罐	3.4	2.4	2.1	17.4						完存	
6	SD1		土罐	3.4	2.5	2.3	16.29						ほぼ完存(抉り部わざ かに欠損)	
7	SD1	瓦質土器	擂鉢	—	8.5+α	—	—	内外・灰黒色	角閃石多量・ 白色粒子	ナデ後模目・ ヨコナデ	ヨコナデ・ 工具ナデ	口縁部片・擂目4本1 単位		
8	SD1	陶器	瓶	(11.8)	4.6	(5.2)	—						関西系か、約1/2残存	
9	SD1	陶器	皿	14.2 (13.8~ 14.4)	4.0~4.4	8.8	—				菊花・ 青海波	高台内に敷着防止の 為の白泥塗布・内底面 5ヶ所目盛あり(径4~ 5mmの円形)被り花 皿・口縁部引ひび・崩 板等		
10	SD1	土師質土器	鉢	—	11.9	—	—	内・椎黄色 外・淡桜黄色	赤色粒子・ 角閃石・ 石英	ヨコナデ後ミ ガキ ナデ後ミガキ	ヨコナデ後工 具ナデ・工具 ナデ・ナデ	口縁部片・外裏面に束 帶状付・口縁部周辺赤 色塗彩(内面のところ どころに塗彩がみられ る事から、内底面全体 に塗装されていた可能 性が高い)		
11	SD1	瓦質土器	鉢	—	16.0+α	—	—	内・黒灰色～灰 褐色 外・黒灰色	石英2~3mm・ 白色粒子	ヨコハケ目・ ハケ目・ナデ・ ナデ後ハケ目	ナデ後ハケ 目・ナデ	体部・底部片・方形あ る事は長い角の鉢・内 外表面および内底面 までハケ目あり(縱方 向)主体・上方には横 方向のハケ目あり)・ハ ケ目5~6本が1単位		瀬戸美濃 産・19世紀 後半
12	SD1	磁器	皿	9.8	2.1	5.5	—	白色				文字(窓)印 刻	完存	
13	SD1	陶器	蓋	10.4	2.1	4.1	—					蓋中央に亜 粘付	ほぼ完存	肥前系
14	SD1	石製品	硯	5.2	7.65	1.85	—						赤銅石製・わずかに脇 部剥落する裏面に刃削傷 あり	
15	SD1	磁器	碗	—	5.7	4.5	—						底部軟骨・口縁部～体 部1/4残存・内底面 約1/2目盛あり	肥前系
16	SD1	磁器	染付碗	—	5.6	(4.7)	—						全体の1/3残存	肥前系
17	SD1	磁器	染付碗	—	6.0	(5.2)	—						くらわんばかりの施 墨あるが殆どは残 る・全体の1/2残存	肥前系 18世紀後半
18	SD1	磁器	染付碗	—	6.0+α	6.7	—						底部完存・広東窓	波佐見窓
19	SD1	磁器	染付碗	(11.2)	5.3	4.2	—						底部完存・口縁部～体 部1/2残存	肥前系 18世紀前半
20	SD1	磁器	染付碗	(10.0)	5.0	3.6	—					二重網目文 様	全体の1/2残存	17世紀後半
21	SD1	磁器	染付皿	—	3.35	9.1	—						全体の1/3残存・輪花 皿	波佐見窓 18世紀第 2-3四半期
22	SD1	磁器	蓋付染付鉢	(16.5)	5.9+α	—	—						体部1/5残存・具頭の 免色不良・	肥前系 17世紀末～ 19世紀中頃
23	SD1	磁器	染付碗	9.5	5.3	4.1	—						完存・型紙	肥前系 19世紀末

番号	遺構 番号	種別	器種	法量(cm)()は復元数値				色調	釉調	胎土	調整・装飾		備考	分類 時期
				口径 / 最大長	器高 / 最大幅	底径 / 最大厚	重量(g)				内面	外面		
24	SD1	磁器	染付碗	(10.0)	5.7	4.3	—						底部充て口縫部～体部1/2残存・削板転写・内底面に4ヶ所目跡(径4～5mm)あり	
25	SD1	磁器	染付碗	9.9	5.0	3.7	—						ほぼ充て・型紙刷	肥前産 19世紀末
26	SD1	土製品	土人形	6.3	4.5	1.05	—	角閃石 長石 白色粒子 褐色粒子					表面に布目痕・金太郎か	
27	SD1	陶器	壺	—	3.6+α	9.8	—						底部1/2残存・内面蛇の目釉剥落・外底歪回転み切離し	
28	SD1	土師質土器	鉢	—	8.5+α	—	—	内外・淡橙黄色 白色粒子 長石・角閃石 石英 褐色粒子					内外面とも被熱により 表面が剥けているが、 おそらく内外面とも繪 面にミガキがあったと 思われる・口縫部片	
29	SD1	土師質土器	鉢	—	7.2+α	—	—	内外・淡黄茶色 ~淡灰黒色 白色粒子	長石・角閃石 石英 褐色粒子	ナデ ヨコナデ	ナデ 工具ナデ	口縫部片		
30	SD1	瓦質土器	鍋	—	7.2+α	—	—	内・淡黄白色 ~淡灰灰色 外・褐色・黒褐色 白色粒子	角閃石 石英 褐色粒子	ナデ後ミガ キ・ナデ	ナデ・ケズリ	口縫部片		
31	SD1	土師質土器	鉢	—	10.9+α	—	—	内・淡橙黄色 外・淡褐色～淡 黒灰色 白色粒子	角閃石多量 石英・長石 褐色粒子	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	口縫部片・突帯貼付		
32	SD1	土師質土器	鉢	—	11.0+α	—	—	内外・淡橙色 白色粒子	角閃石 赤褐色粒子 長石	ミガキ	ヨコナデ・ミ ガキ	口縫部片・突帯貼付		
33	SD1	土師質土器	壺	—	14.2+α	—	—	内外・淡白黄色 白色粒子	工具ナデ	ナデ	口縫部片・汚い作り			
34	SD1	土師質土器	壺	—	10.0+α	—	—	内外・淡橙黄色 ~淡黄褐色 白色粒子(1～2mm)	石英・褐色粒子 ヨコナデ	ヨコナデ 指オサエ後ナ デ	口縫部片			
35	SD1	陶器	埴鉢	—	9.9+α	—	—		埴目			口縫部片		
36	SD1	土師質土器	壺	—	5.7+α	—	—	内・淡橙黄色 外・淡褐色～淡 黒褐色 白色粒子	角閃石・石英 褐色粒子 白色粒子	ナデ 指オサエ後ナ デ	ナデ 指オサエ後ナ デ	口縫部片・口付きか れ		
37	SD1	瓦質土器	鍋	—	6.5+α	—	—	内・淡黄茶色 外・黒褐色～淡 黄褐色 白色粒子	角閃石多量 赤褐色粒子	ミガキ・ナデ	ナデ・ケズリ	口縫部片		
38	SD1	瓦質土器	釜	—	8.3+α	—	—	内・淡黄灰白色 外・淡褐色～淡 黒褐色 白色粒子	長石 角閃石	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	体部片・肩下に梅花文 の模文・部分的にスス 付着		
39	SD1	陶器	壺	—	3.8+α	—	—					口縫部片		
40	SD1	陶器	片口	—	7.2+α	—	—			回転ナデ	回転ナデ	口縫部片		
41	SD1	ガラス製品	瓶	1.5	4.2	3.0	—	無色透明					完存・柄部にわずかに 気泡有・口縫部ひび ワーリング瓶か	
42	SD1	磁器	壺	—	4.2	3.1	—						底部充て・口縫部～体 部1/2残存・胎上赤絵 つけ	
43	SD1	磁器	壺	6.6	4.3	2.9	—						完存・外表面だれの跡 あり	
44	SD1	陶器	壺	—	19.3+α	—	—			ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	口縫部～体部片		
45	SD1	石器	石鏟	2.2	1.6	0.2	0.6						安山岩製・風化・摩耗 が激しく剥離面、リン グが不明瞭	
46	SD1		鏡	—	—	—	—						寛永通宝	
47	SD1	瓦質土器	鉢	—	7.1+α	—	—	灰褐色	角閃石 赤色粒子 白色粒子	ケズリ?	ナデ・ケズリ	口縫部片		
48	SD1	瓦質土器	鉢	—	6.5+α	—	—	淡褐色	角閃石 赤色粒子 石英	ナデ	不明	口縫部片、口縫直下に 2条の突帯を有する		

番号	遺構番号	種別	器種	法量(cm)()は復元数値				色調	釉調	胎土	調整・装飾		備考	分類時期
				口径 / 器高 / 最大長	底径 / 最大幅	孔徑 / 最大厚	重量(g)				内面	外面		
49	SD1	瓦質土器	火鉢	—	4.4+α	—	—	黒褐色	角閃石 赤色粒子 白色粒子	ミガキ・ナデ	ミガキ	口縁部、口縁直下に 2条の突帯を有する		
50	SD1	瓦質土器	鍋?	—	5.7+α	—	—	淡褐色	角閃石 赤色粒子 白色粒子	不明	不明	口縁部		
51	SD1	瓦質土器	鉢	—	3.8+α	—	—	淡褐色	角閃石 石英	ミガキ?	ナデ?	口縁部		
52	SD1	瓦質土器	蓋?	—	3.8+α	—	—	淡褐色	角閃石 赤色粒子 白色粒子	ナデ	回転ナデケ ズリ	口縁部		
53	SD1	瓦質土器	?	—	6.5+α	—	—	淡褐色	赤色粒子 白色粒子	ナデ	ナデ	口縁部		
54	SD1		土鍋	5.5	2.1	2.1	21.6						完存	
55	SD1		土鍋	5.4	1.6	1.8	14.5						完存	
56	SD1		土鍋	4.4	0.8	0.9	3.2						完存	
57	SD1	瓦質	碗	—	6.6+α	—	—	灰黄色	黒色粒子 茶色粒子	ミガキ	ミガキ	口縁部		
58	SD1	瓦質	鍋	—	6.1+α	—	—	黄褐色	白色粒子 長石石英	ナデ	ケズリ	口縁部		
59	SD1	瓦質	鍋	—	4.6+α	—	—	灰黄色	黒色粒子 白色粒子 長石石英	ナデ	ケズリ?	口縁部		
60	SD1	瓦質	鍋	—	6.9+α	—	—	灰褐色	白色粒子 長石石英	ナデ	ケズリ	口縁部		
61	SD1	瓦質	鉢	—	8+α	—	—	灰褐色	白色粒子 長石石英	不明	不明	口縁部		
62	SD1	瓦質	鍋	—	4.2+α	—	—	灰褐色	白色粒子 長石石英	ナデ	ナデ・ケズリ	口縁部		
63	SD1	瓦質	鉢	—	2.9+α	—	—	黑灰黄色	白色粒子 黒色粒子	ミガキ	ナデ	外面:スタンプ		
64	SD3	瓦質	鍋	—	4+α	—	—	黒灰橙色	赤色粒子 白色粒子	ナデ	ケズリ	口縁部		
65	SD3	瓦質	鍋	—	5+α	—	—	黒灰橙色	赤色粒子 白色粒子	ナデ	ナデ?	口縁部		
66	SD2	青磁	碗	—	1.8+α	—	—	黄綠色				口縁部		

第5章 小 結

1、中須遺跡

中須遺跡では108基の土坑が検出された。調査面積は1,085m²であったが、土坑以外の遺構は皆無の状態であった。この様な遺跡の類例を知らないが、古墳時代～中世の数百年の間、同じ用途でこの場所は利用されたものであろう。調査地は谷状地形の底になる。平成元年、今津中学校建設に伴い発掘調査が実施され、6世紀末～7世紀初頭の古墳時代後期の集落が調査されている。今回の試掘調査で中須遺跡は範囲変更をおこなった。中学校建設で出土した遺物は概ね土坑からの出土遺物と同時期である。集落の廃棄物を谷状地形に廃棄したのであろうか。また遺物のない土坑が68基確認された。ややオーバーハング気味に掘り込まれ貯蔵穴の性格も考慮される。SK36は土師器の鉢を埋設した遺構であった。祭的な性格も考えられる。

2、古田遺跡

古田遺跡は平成13年、県道拡幅に伴う試掘調査で発見された遺跡である。縄文時代晩期の土坑が調査され周知された。今回の調査区で検出された遺構は、溝状遺構12条、土坑4基であった。特筆されるのは1区のSD1から出土した耳環である。耳環は威信財で通常、墓から出土する例が多い。紛失したものであろうか。平成18年度、諸田遺跡二反田地区の発掘調査でSK4が発掘された。直径380cm、深さ80cmの円形。この土坑の底から耳環が検出された。耳環以外の出土遺物は少ない。古田遺跡は五十石川の左岸に位置する。1区、3区で検出された溝状遺構は、五十石川方向にのびる。川の水を引き込み、池状の土坑に水を溜め、水温をあげて水田に流し込んだ遺構と推測される。諸田遺跡二反田地区のSK4も同様の遺構と推測される。耳環は水田祭祀に用いられ、意図的に廃棄されたものであろうか。

中世の遺物で白磁、青磁が数点、瓦器腕片が数十点、出土している。古田遺跡は宇佐市と隣接する。五十石川上流には宇佐市の吉久遺跡が立地する。吉久遺跡の詳細は不明であるが、堀で区画された3区画の施設が発掘調査された。中世の遺物は吉久遺跡からの流れ込みによるものと推測される。

3、佐間殿遺跡

佐間殿遺跡は今回の試掘調査で新発見された遺跡である。遺跡名は小字から命名した。今回調査されたSD1は字界に位置する。周辺の聞き取りから溝は近代まで開いた状態であったことが確認された。また、溝は埋められ、通路として機能していた。調査地点より西に約70mで同様の道が存在する。この道が溝状になるのであれば方形の区画の存在が期待される。明治21年の地図で調査地点周辺は不明であるが、周辺には寺屋敷、古屋敷などの小字名や伝説^{※1}が残り居館の存在が推測される。今後、周辺調査が期待される。

※1 調査区周辺の住民からの聞き取り「この地には殿様が住んでいた」

写 真 図 版

写真図版1 中須遺跡



SK7



SK12



SK13



SK32



SK36



SK42



SK105



中須遺跡全景 南から

写真図版2 古田遺跡



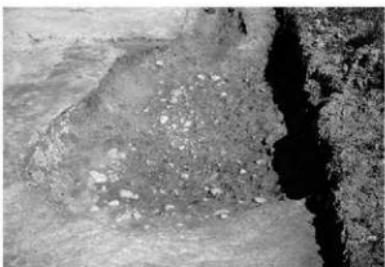
1区 東から



1区 SD1



1区 SD1耳環出土状況



2区 SK1完堀



3区 北から



3区 SK2

写真図版3 佐間殿遺跡



発掘風景



SD3完堀



SD2、3完堀



SD1完堀

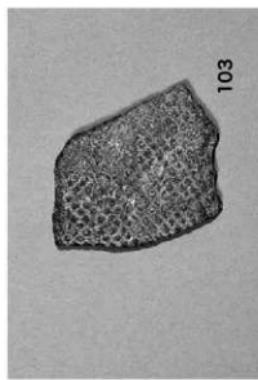
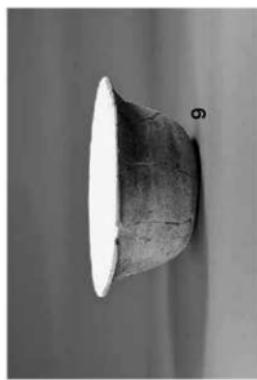
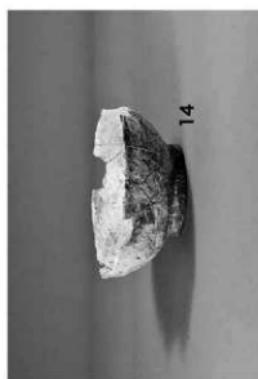
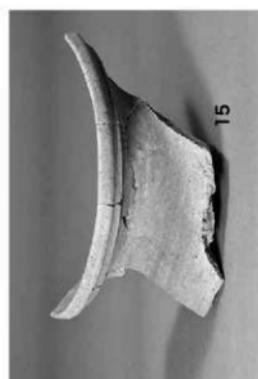
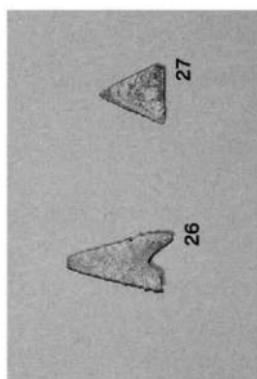
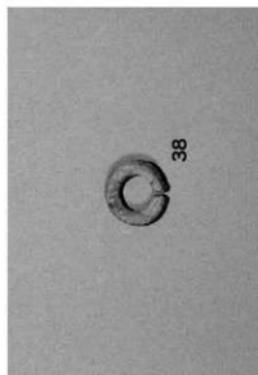
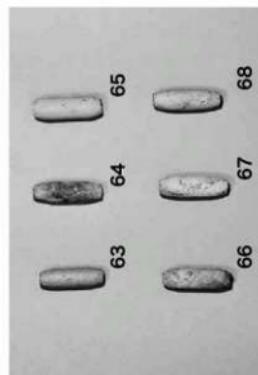
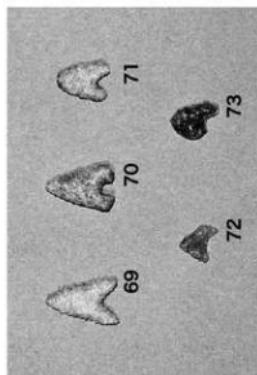


SD1土層

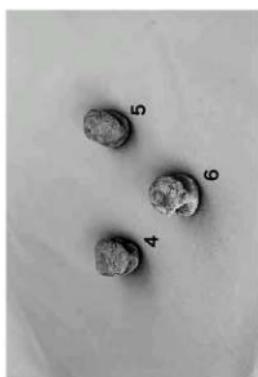
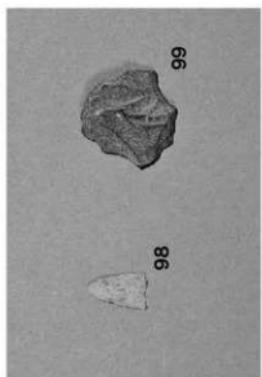
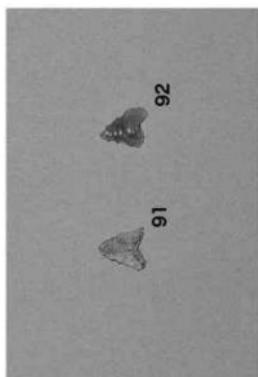
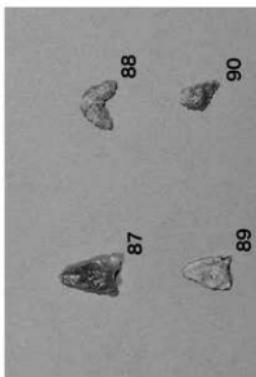
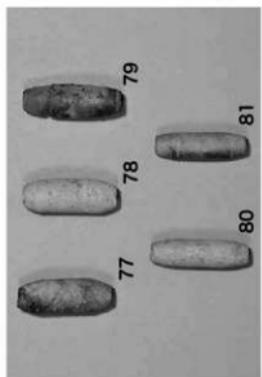
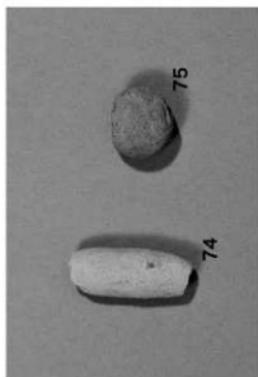


SD3土層

写真図版4 中須遺跡・古田遺跡出土遺物



写真図版5 中須遺跡・古田遺跡・佐間殿遺跡出土遺物



報 告 書 抄 錄

ふりがな	なかすいせき ふるたいせき さまといせき							
書名	中須遺跡・古田遺跡・佐間殿遺跡							
副書名	県営圃場整備に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第82集							
編集者名	花崎徹							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111							
発行年月日	2017年3月14日							
所取遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中須遺跡	大分県中津市 大字今津965他	44203	203100	33°	131°	20110901	1,085m ²	県営圃場整備
				34'	16'	~		
				15"	2"	20111031		
古田遺跡	大分県中津市 大字植野1682他	44203	203130	33°	131°	20130801	2,743m ²	県営圃場整備
				33'	16'	~		
				59"	34"	20131031		
佐間殿遺跡	大分県中津市 大字鍋島1453他	44203	203296	33°	131°	20150818	160m ²	県営農道整備
				31'	15'	~		
				19"	13"	20151015		
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中須遺跡	集落	古墳・中世	土坑	須恵器 瓦器碗など	中須遺跡は、調査区内で土坑以外の遺構が皆無の遺跡であった。土坑108基。			
古田遺跡	集落	古墳・中世	溝・土坑	土師器 瓦質土器など	古田遺跡は、五十石川から水路を引き込み、土坑に水を溜め、水田に水を流し入れた遺跡。			
佐間殿遺跡	居館?	中世・近世	堀・溝	瓦質土器 陶磁器など	佐間殿遺跡は中世居館の一部か。幅約4mの堀が新発見された。			

中須遺跡・古田遺跡・佐間殿遺跡

県営圃場整備に伴う発掘調査

中津市文化財調査報告 第82集

2017年3月14日

発行 中津市教育委員会

印刷 豊川原田印刷社

